（Ｉ）生成AIの校務での活用に関する実証事業
事業報告書（最終報告）

2026年3月31日

目次

1. はじめに
   - 1.1 本事業の背景
2. 実証研究の概要
   - 2.1 実証研究の目的
   - 2.2 実証地域
   - 2.3 実証期間（全体スケジュール）
   - 2.4 推進体制
3. 実施環境とシステム構成
   - 3.1 セキュアな利用環境
   - 3.2 対話型生成AIチャットボット
   - 3.3 データレイクの運用方法
   - 3.4 ネットワーク構成・セキュリティ対策等
4. 運用方法と管理
   - 4.1 ユーザー認証方法・権限設定
   - 4.2 利用ログ管理
   - 4.3 保守体制
5. 活用促進とサポート体制
   - 5.1 教職員への活用促進施策
   - 5.2 活用促進の実施方法
   - 5.3 サポート体制
6. 実証結果と効果
   - 6.1 横展開可能な好事例の創出
   - 6.2 効果的な活用促進パッケージの整理
7. 課題と解決策
   - 7.1 実証を通じて見えた課題
   - 7.2 課題の解決策
   - 7.3 残課題
8. 今後の展望
   - 8.1 生成AIの校務活用拡大に向けた要諦
   - 8.2 他自治体へ展開する場合のロードマップ案

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

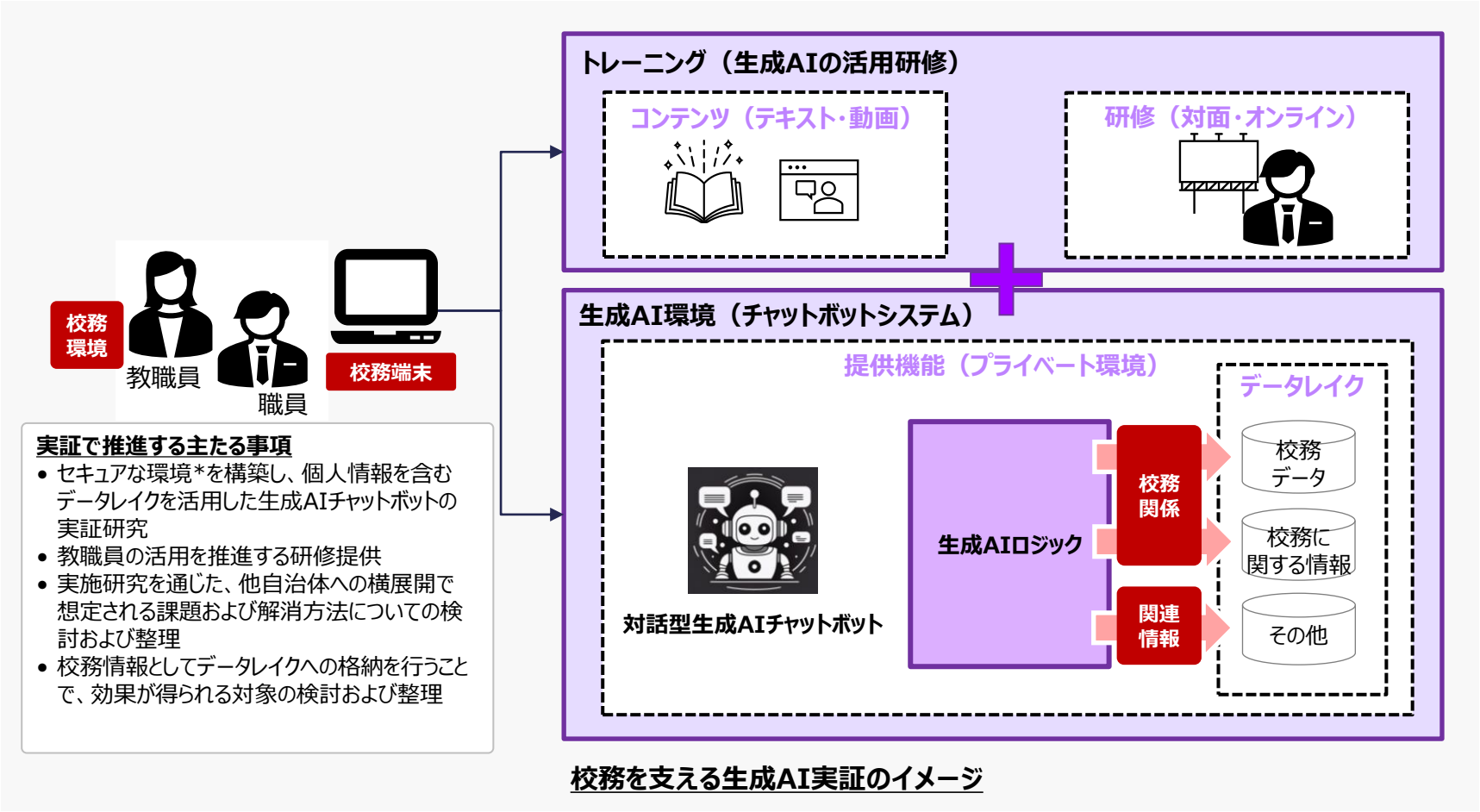
目次

1. **はじめに**
   - **1.1 本事業の背景**
2. 実証研究の概要
   - 2.1 実証研究の目的
   - 2.2 実証地域
   - 2.3 実証期間（全体スケジュール）
   - 2.4 推進体制
3. 実施環境とシステム構成
   - 3.1 セキュアな利用環境
   - 3.2 対話型生成AIチャットボット
   - 3.3 データレイクの運用方法
   - 3.4 ネットワーク構成・セキュリティ対策等
4. 運用方法と管理
   - 4.1 ユーザー認証方法・権限設定
   - 4.2 利用ログ管理
   - 4.3 保守体制
5. 活用促進とサポート体制
   - 5.1 教職員への活用促進施策
   - 5.2 活用促進の実施方法
   - 5.3 サポート体制
6. 実証結果と効果
   - 6.1 横展開可能な好事例の創出
   - 6.2 効果的な活用促進パッケージの整理
7. 課題と解決策
   - 7.1 実証を通じて見えた課題
   - 7.2 課題の解決策
   - 7.3 残課題
8. 今後の展望
   - 8.1 生成AIの校務活用拡大に向けた要諦
   - 8.2 他自治体へ展開する場合のロードマップ案

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

1.1 本事業の背景

本事業は、校務で取り扱う個人情報などの重要性の高い情報について、パブリック型の生成AIとは異なり、セキュアな環境に構築されたデータレイクを活用することで、従来は利用困難であったデータの活用を可能にする。これにより、教育現場における効果的かつ適切な生成AI利活用を実現するための好事例や留意事項を整理し、広く教育現場での生成AI利活用を実証することを目的とするものである。



校務を支える生成AI実証のイメージ

＊：個人情報や機密情報が外部に漏れないよう対策した環境

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

目次

1. はじめに
   - 1.1 本事業の背景
2. **実証研究の概要**
   - **2.1 実証研究の目的**
   - **2.2 実証地域**
   - **2.3 実証期間（全体スケジュール）**
   - **2.4 推進体制**
3. 実施環境とシステム構成
   - 3.1 セキュアな利用環境
   - 3.2 対話型生成AIチャットボット
   - 3.3 データレイクの運用方法
   - 3.4 ネットワーク構成・セキュリティ対策等
4. 運用方法と管理
   - 4.1 ユーザー認証方法・権限設定
   - 4.2 利用ログ管理
   - 4.3 保守体制
5. 活用促進とサポート体制
   - 5.1 教職員への活用促進施策
   - 5.2 活用促進の実施方法
   - 5.3 サポート体制
6. 実証結果と効果
   - 6.1 横展開可能な好事例の創出
   - 6.2 効果的な活用促進パッケージの整理
7. 課題と解決策
   - 7.1 実証を通じて見えた課題
   - 7.2 課題の解決策
   - 7.3 残課題
8. 今後の展望
   - 8.1 生成AIの校務活用拡大に向けた要諦
   - 8.2 他自治体へ展開する場合のロードマップ案

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

2.1 実証研究の目的

本事業では、実証先において、個人情報や重要性の高い情報が外部に漏れないよう対策したセキュアな環境下にて、学校や教育委員会の教職員が生成AIを校務で活用するための実証研究を行う。

本事業の目的

<u>本実証研究の目的</u>

- 本事業は、
  ・適切なセキュリティ対策の下で個人情報等重要性の高い情報を取り扱える生成AI の利用環境において、ダッシュボード等のツールとの連携の検討も含め、校務で生成AI を活用する実証研究。
  ・生成AI の機能を組み込ませた校務支援システムサービスの開発支援を通じて教育現場での効果的・適切な生成AIの利活用の実現を支援するものとする。
- 上記環境下において、データ連携や働き方改革を推進するにあたり、以下に示す代表的な課題の解消に向け、次世代の校務デジタル化モデルの実証研究を行う。
- 本事業(Ⅰ)においては、個人情報や重要性の高い情報が外部に漏れないよう対策したセキュアな環境下において、学校や教育委員会の教職員が生成AIを活用するための以下の要件に沿って実証研究を行う。
  - 生成AI を教育委員会や学校で活用するためのデータを収集し蓄積する環境の運用
  - 対話型生成AI チャットボットシステムと、必要となるネットワーク環境及びセキュリティの運用
  - 教育委員会や教職員への研修、サポートの実施

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

2.2 実証地域

本事業における実証地域（佐賀県嬉野市）に関する情報は以下のとおり。市内すべての小中学校（12校）の教職員231名が参加し実証研究を実施した。

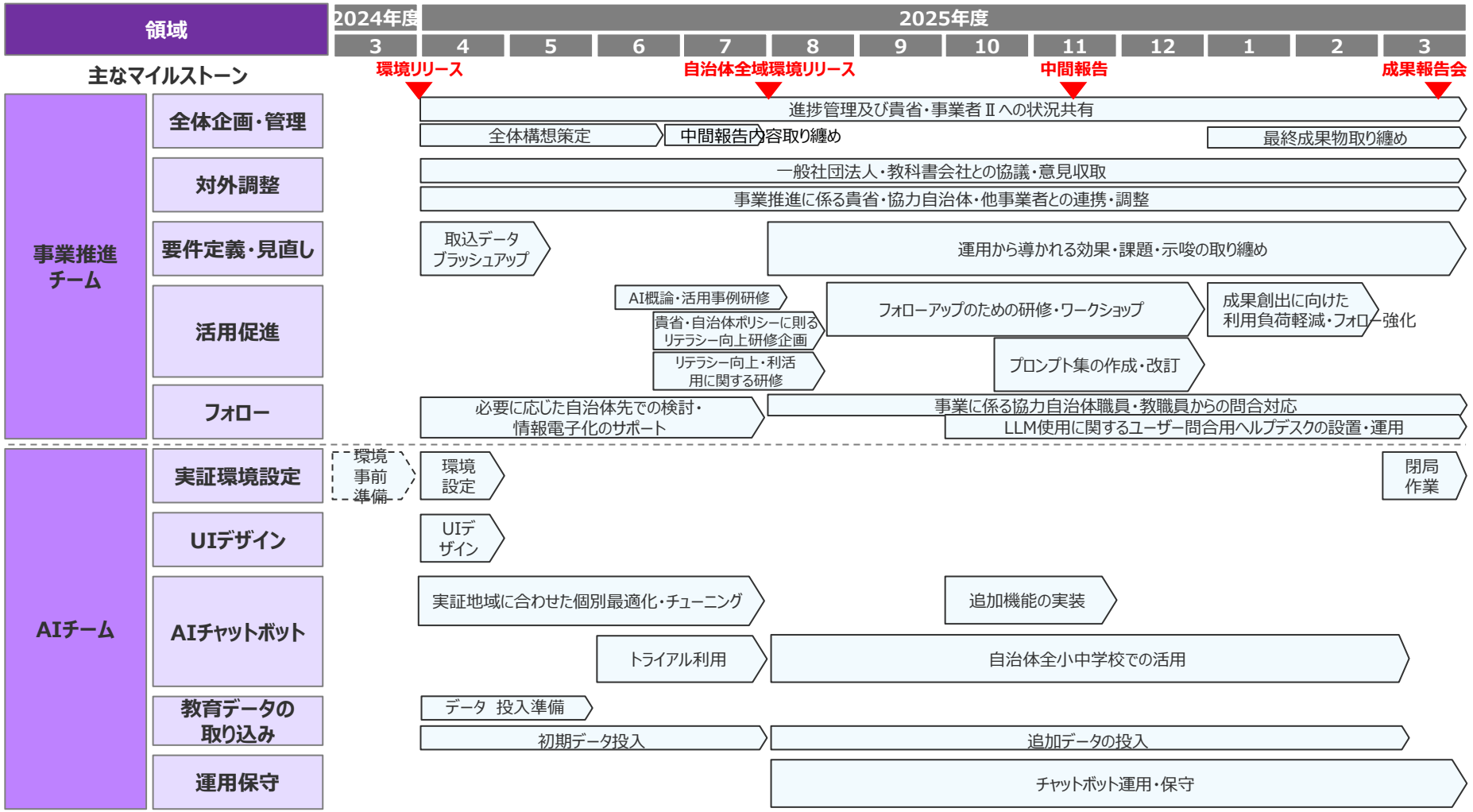
自治体概要

自治体名	**佐賀県嬉野市**
教育基本方針	嬉野市は、小学校8校、中学校4校があり、独自の21世紀型教育システムを構築し、心豊かでたくましい「嬉野っ子」を育成することを目指している。具体的には、以下の3つのバランスの取れた教育を推進。 **確かな学力**：基礎・基本の定着、思考力・判断力・表現力の育成 **豊かな人間性**：豊かな心、感動する心、おもてなしの心の育成 **健全な体**：強靭な体、頑張る気持ち、持久力・精神力の育成
教育DXへの取組	佐賀県内の自治体は、GIGAスクール構想が始まる前より義務教育におけるICT活用を推進してきており、嬉野市も同様に先駆者的に児童生徒の端末活用を推進してきている。学校における働き方改革として、「長時間労働の解消」・「業務改善」・「マンパワーの充実」・「部活動の適正化」・「健康管理体制の充実」をテーマに掲げ、各テーマに応じてICT機器の活用等も含めて施策を検討・実施。
市政としての取組	嬉野市は、まちづくりの基本方針として「世代をこえて住み続けるまち」「支え合う喜びが広がるまち」「自ら考え、自ら動く自発のまち」「人輝き活力あるまち」を掲げ、**街の魅力や住民への魅力を最大化する市政を推進**、併せてデジタル時代の先駆けとして、自動運転車両の実証実験、メタバース空間「デジタルモール嬉野」といった最新テクノロジーの活用や、市庁舎の整備による市民サービス向上及び新幹線開業に伴う駅周辺のまちづくりなど、**地域の活性化に積極的に取り組んでいる**。
参加した学校	嬉野市内には、小学校8校（分校1校）、中学校4校の計12校の学校があり、**市内すべての学校を本実証の対象**として生成AIの利用可能なセキュアな環境を提供した。
参加した教職員	本実証においては、**市内すべての小中学校の教職員231名**を対象として実証研究を行った。

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

2.3 実証期間（全体スケジュール）

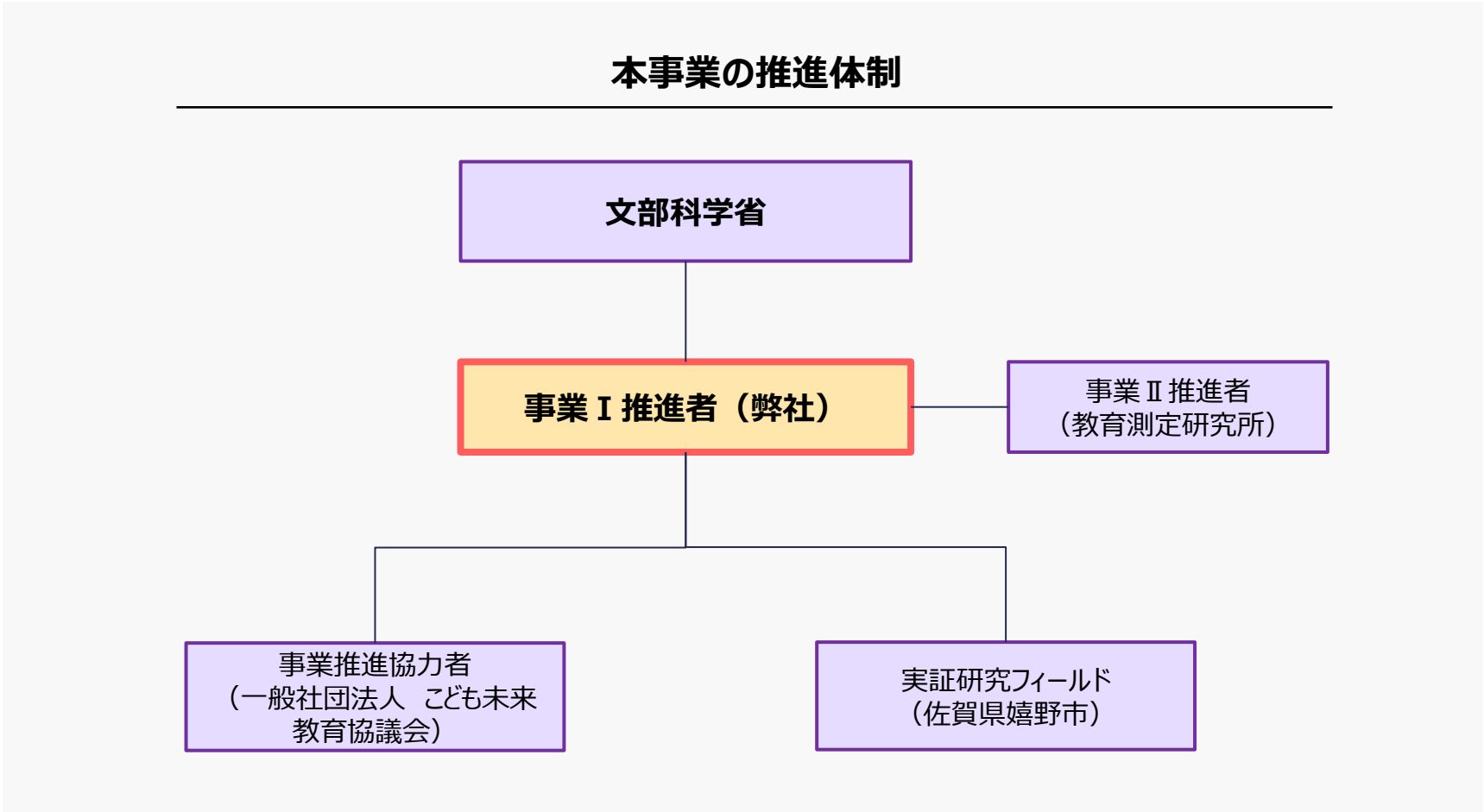
本事業は2025年4月から2026年3月末までの期間で実証を行った。



Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

2.4 推進体制

本事業は、以下のような推進体制で実証研究事業を実施した。



Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

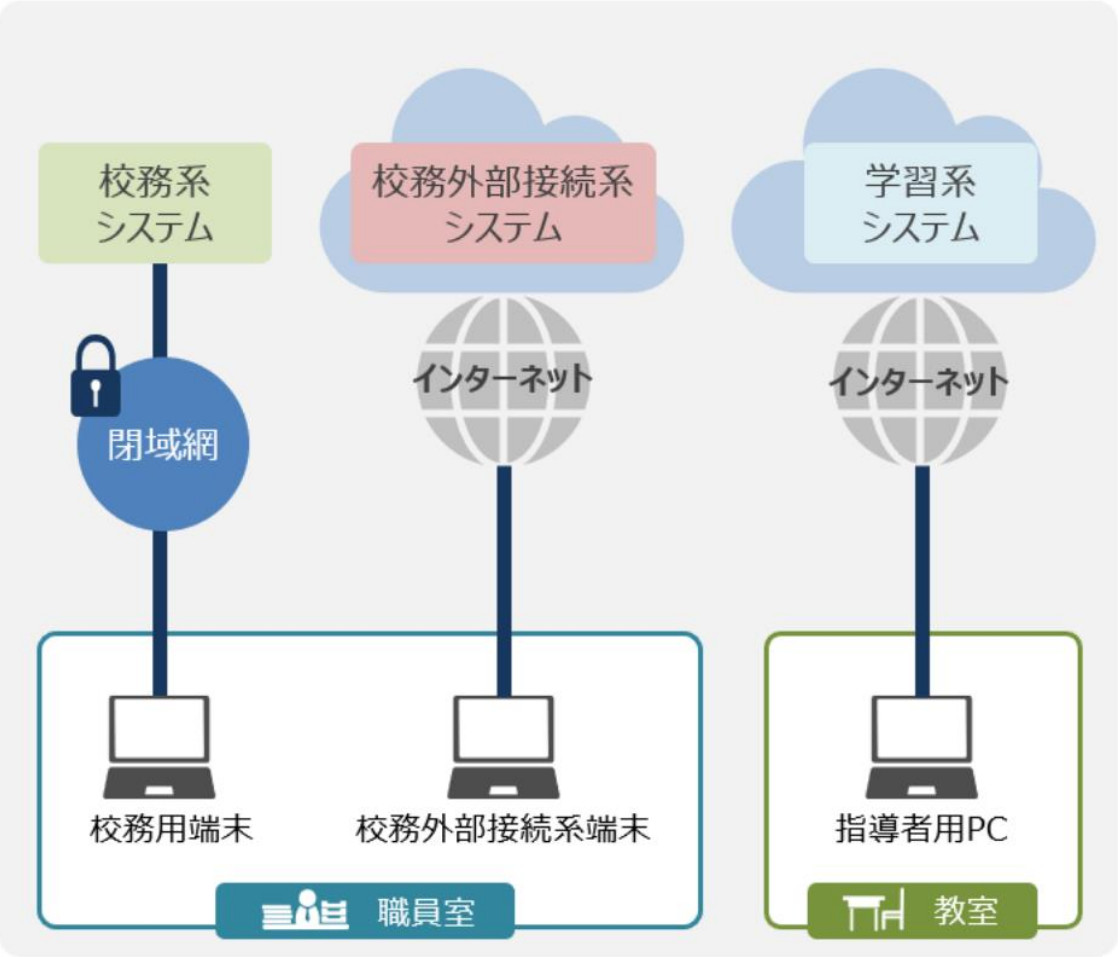
目次

1. はじめに
   - 1.1 本事業の趣旨・目的
2. 実証研究の概要
   - 2.1 実証研究の目的
   - 2.2 実証地域
   - 2.3 実証期間（全体スケジュール）
   - 2.4 推進体制
3. **実施環境とシステム構成**
   - **3.1 セキュアな利用環境**
   - **3.2 対話型生成AIチャットボット**
   - **3.3 データレイクの運用方法**
   - **3.4 ネットワーク構成・セキュリティ対策等**
4. 運用方法と管理
   - 4.1 ユーザー認証方法・権限設定
   - 4.2 利用ログ管理
   - 4.3 保守体制
5. 活用促進とサポート体制
   - 5.1 教職員への活用促進施策
   - 5.2 活用促進の実施方法
   - 5.3 サポート体制
6. 実証結果と効果
   - 6.1 横展開可能な好事例の創出
   - 6.2 効果的な活用促進パッケージの整理
7. 課題と解決策
   - 7.1 実証を通じて見えた課題
   - 7.2 課題の解決策
   - 7.3 残課題
8. 今後の展望
   - 8.1 生成AIの校務活用拡大に向けた要諦
   - 8.2 他自治体へ展開する場合のロードマップ案

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.1 セキュアな利用環境の概要：三層分離

本実証は、校務系システム・校務外部接続系システム・学習系システムをそれぞれ分離したネットワークで構築する三層分離のモデルでセキュリティを担保している。



※それぞれの環境について適切なセキュリティ対策が講じられている前提の概念図を示している。

※引用：「次世代校務DXガイドブック」P.25　文部科学省初等中等教育局　学校デジタル化プロジェクトチーム

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.1 セキュアな利用環境：環境・ユーザごとの概要

本事業では、教職員が普段校務で利用する環境とは別に、セキュアブラウザおよび二要素認証の利用を前提とする実証研究用のセキュアな環境を権限別に2種類構築した。

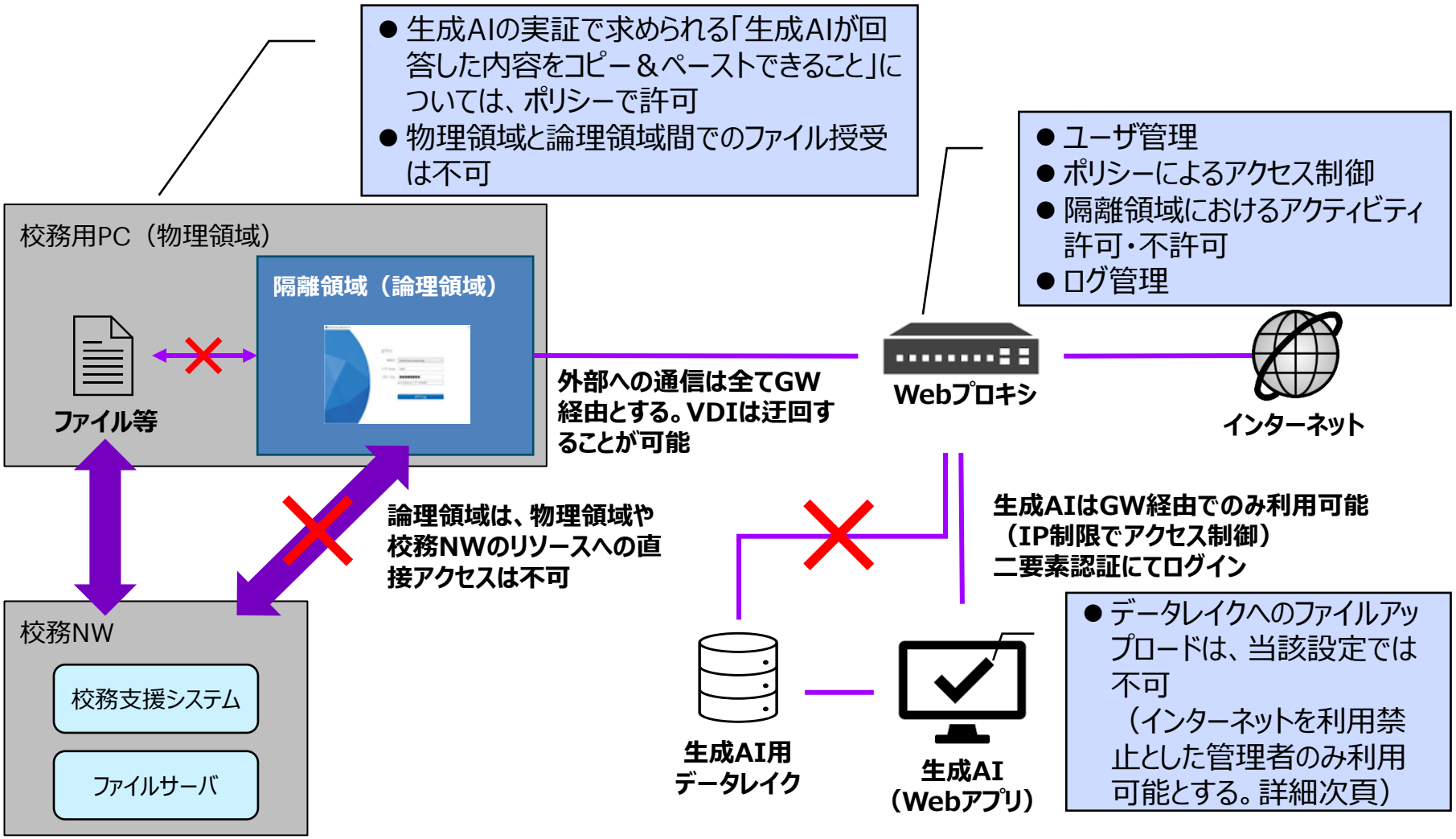
環境	ユーザ	環境の説明	校務NW	インターネット	生成AI
実証研究	1 教職員（利用者）	• 教職員（利用者）が**実証研究で生成AIを利用**する環境 • 校務用PC上で論理分離されたセキュアブラウザを利用し、**校務用PCの環境とインターネットを論理的に分離** • データレイクへのデータの**アップロードは不可** • 生成AIへの**ログイン時に二要素認証**	✕	○	○ ※1
実証研究	2 教職員（管理者）	• 教職員（管理者）が**実証研究にて校務データを生成AI用データレイクにアップロード**する環境 • 校務用PC上で論理分離されたセキュアブラウザを利用し、**インターネットを含めた生成AI以外へのアクセスが不可**な環境とし、**インターネットを利用する環境とアップロードする環境を論理的に分離** • 生成AIへの**ログイン時に二要素認証**	△ ※2	✕	○
校務	3 全教職員	• 教職員が校務を実施する環境 • これまでどおり校務NW上の校務支援システムやファイルサーバ等は利用できるが、インターネットについては利用できない	○	✕	✕

※1 生成AIへのアクセスは可能ながら、データレイクへのファイルアップロードは不可
※2 校務支援システムやファイルサーバに保管された校務データは、セキュアブラウザを経由して生成AI用データレイクへのアップロードのみが可能

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.1 セキュアな利用環境：①教職員（利用者）論理領域

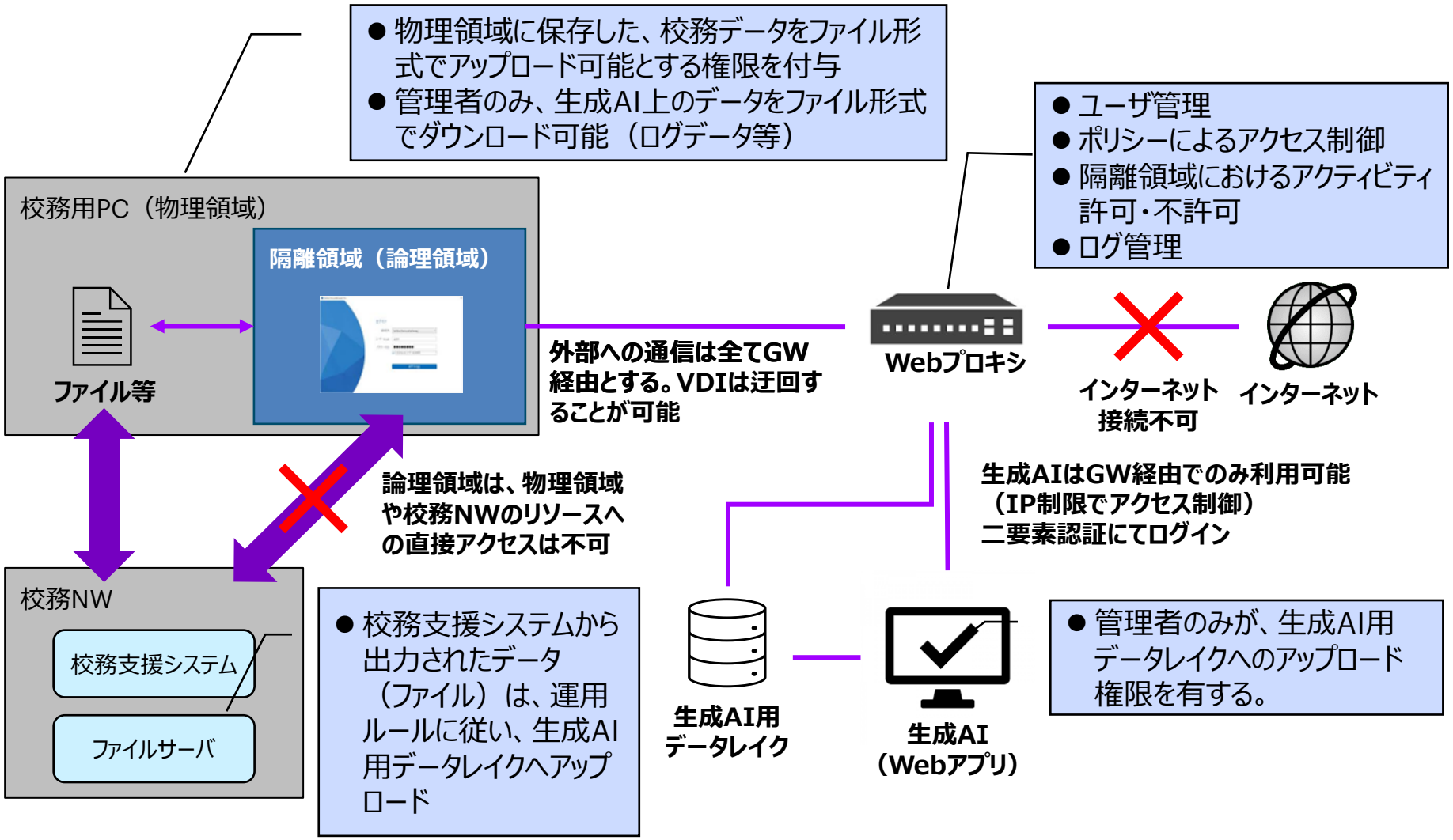
教職員（利用者）は、物理端末上で隔離された論理領域においてセキュアブラウザを利用し、インターネットおよび生成AI（利用者機能）を利用する。データアップロードは不可である。



Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.1 セキュアな利用環境：②教職員（管理者）論理領域

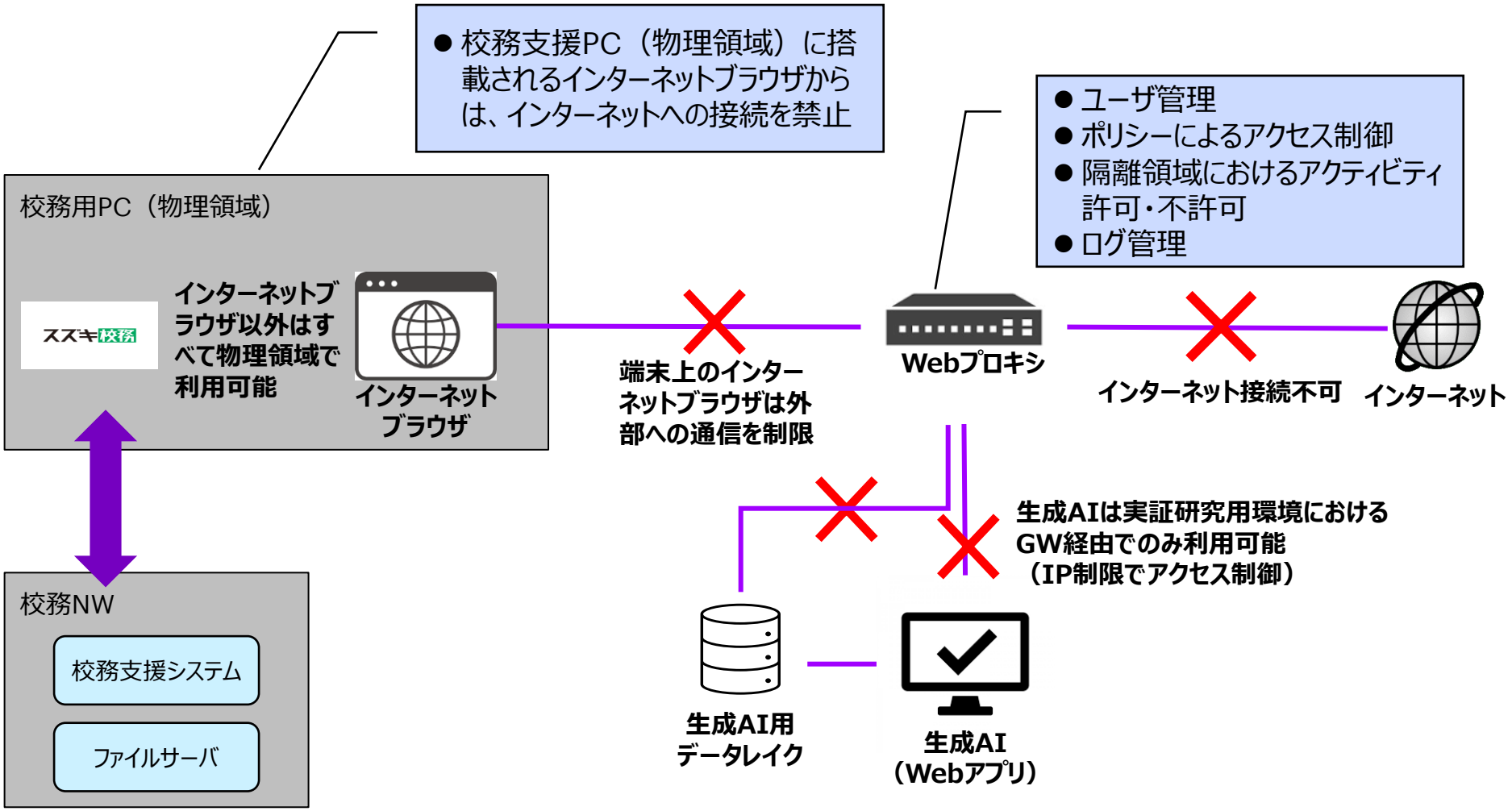
教職員（管理者）は、セキュアブラウザ経由でのデータレイクへの校務データアップロードを可能とする一方で、その他のインターネットへのアクセスはすべて論理的に制御する。



Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.1 セキュアな利用環境：③校務用PC（物理領域）の対応

校務用PC（物理領域）からアクセスできるのは校務NWに限られ、インターネットへの接続は不可となっている。



Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.2 対話型生成AIチャットボット｜機能概要

生成AIが学習している情報に基づくチャットに加えて、インターネット検索や校務データを活用したチャットが可能な生成AIチャットボットを整備・運用した。

チャットボット画面



主な機能

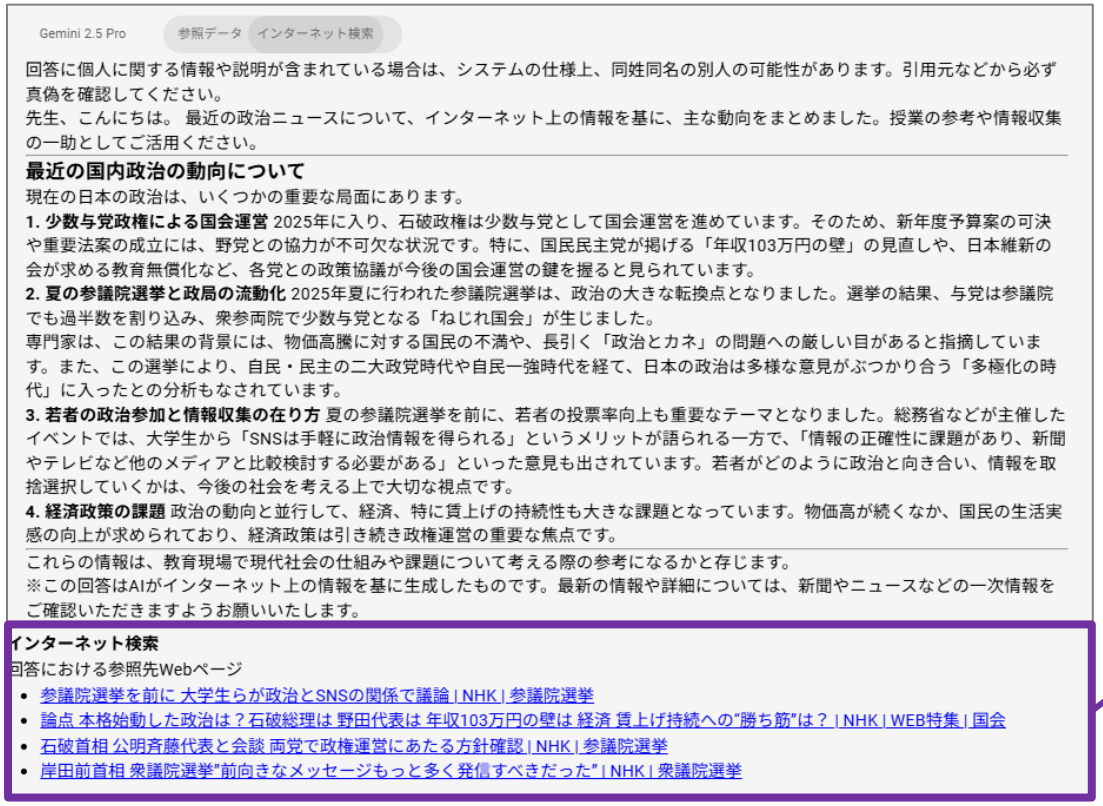
- 生成AIが学習している情報による質疑応答
- **インターネット検索**を行った質疑応答
- **校務システムデータ**に基づく質疑応答
- **校務システム以外のデータ**に基づく質疑応答

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.2 対話型生成AIチャットボット ｜インターネット検索

インターネット検索から信頼できると考えられるソースを優先して回答に採用する仕組みと、根拠となるリンクを併記する仕組みにより、信頼・説明できるアウトプットを実現している。

インターネット検索の一例（ニュース検索）



機能のポイント

- ユーザの質問に対し、回答に必要な情報が存在するWebページを**インターネットから検索**
- 生成AIが学習している情報だけでなく、**検索したWebページの情報も踏まえて質問に回答**

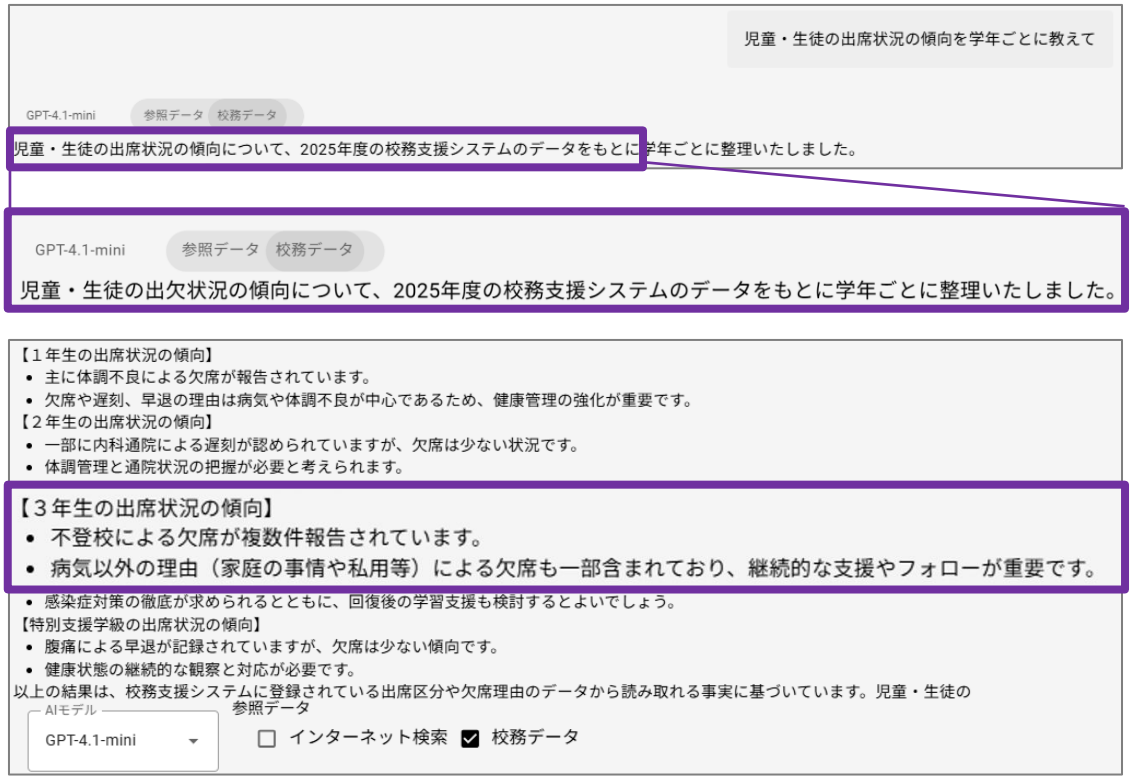
- 大手マスコミ等の**信頼できると考えられるソースを優先して回答**できる
- Webページリンクを掲載し、**利用者が回答の確からしさを確認**できる

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.2 対話型生成AIチャットボット ｜校務データ検索

セキュアな環境だからこそ取り込める校務システムのデータ（児童・生徒の個人情報を含むものも想定）をもとに、生成AIの学習した情報のみでは回答できない各校に関わる質問も回答可能としている。

校務データ検索の一例



機能のポイント

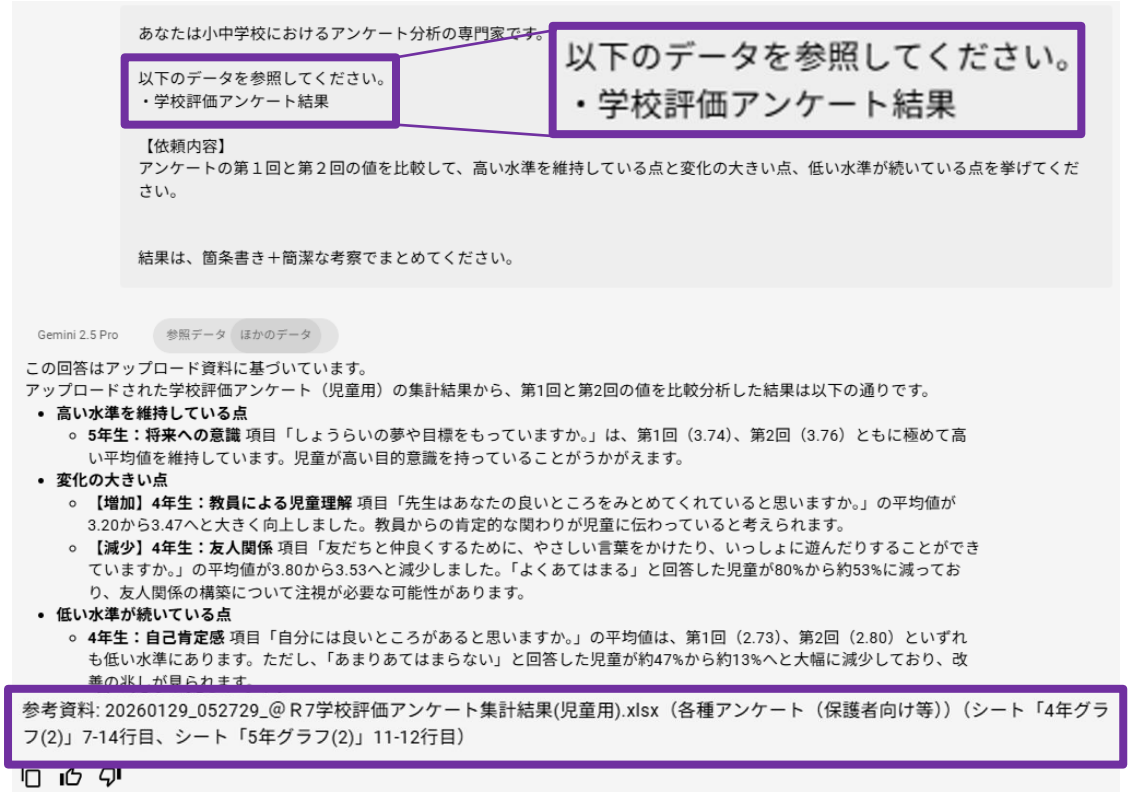
- 児童・生徒の個人情報も含まれる**校務データをあらかじめ生成AI用データレイクにアップロード**することで、ユーザの質問に対し、**回答に必要な情報を校務データより検索**
- 生成AIの学習した情報のみでは回答できない各校に関わる質問にも回答

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.2 対話型生成AIチャットボット ｜その他のデータ検索

校務システム以外に校内のファイルサーバのデータも取り込み、校務システムだけではカバーできない校内のデータも参照することで、**セキュアな環境だからこそ**の幅広い検索・回答を可能としている。

その他のデータ検索の一例



機能のポイント

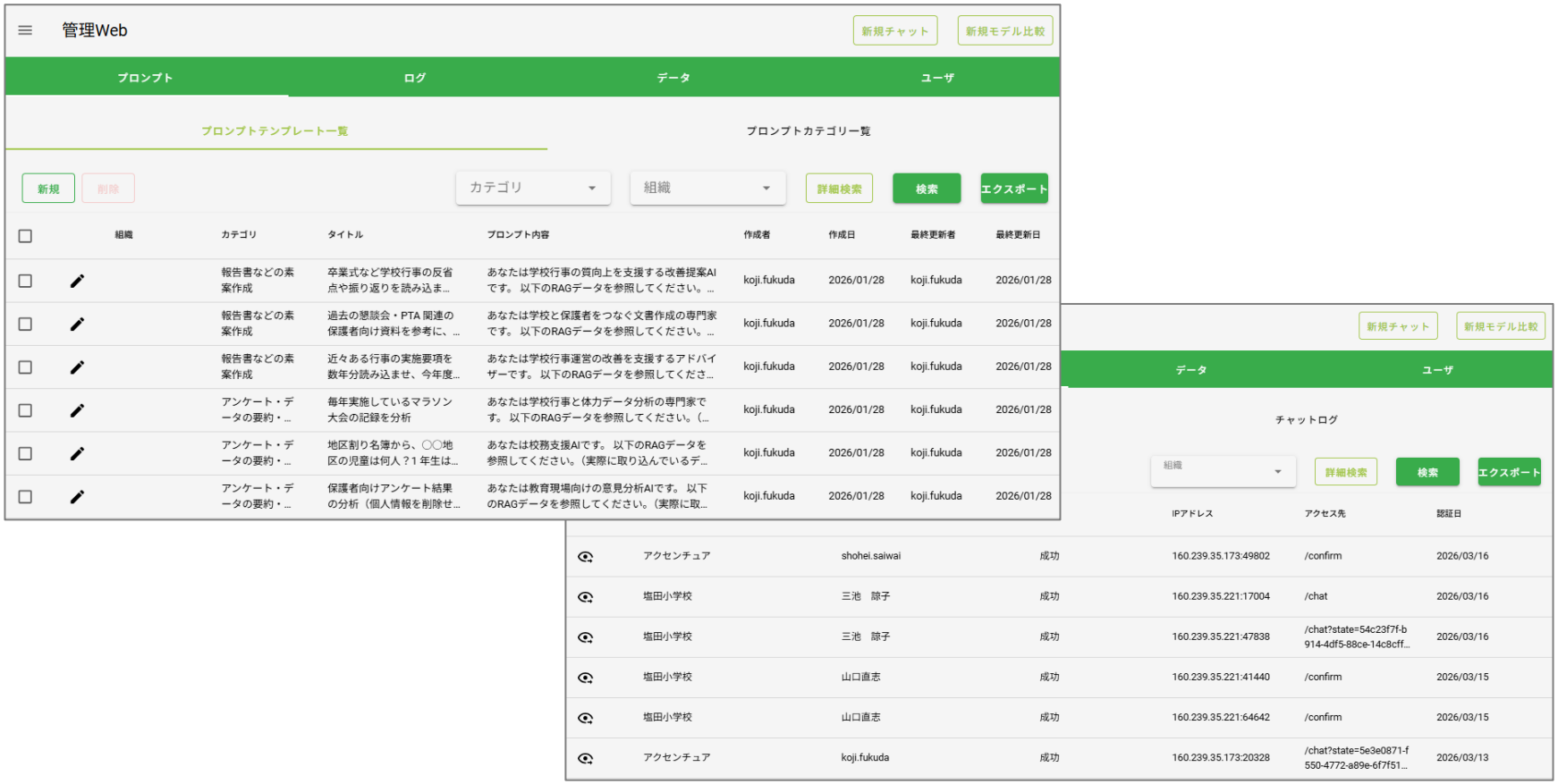
- **校内のファイルサーバのデータもデータレイクにアップロード**することで、校務システムだけではカバーできない校内のデータも参照
- 当該データも参照することで、**セキュアな環境での幅広い検索・回答を可能**としている。

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.2 対話型生成AIチャットボット 管理機能

生成AIの管理者権限を持つユーザに対しては、チャットに用いるプロンプトテンプレートやログ、校務データなどを管理する機能を提供している。

管理機能の一例（プロンプトテンプレート・ログデータ管理）

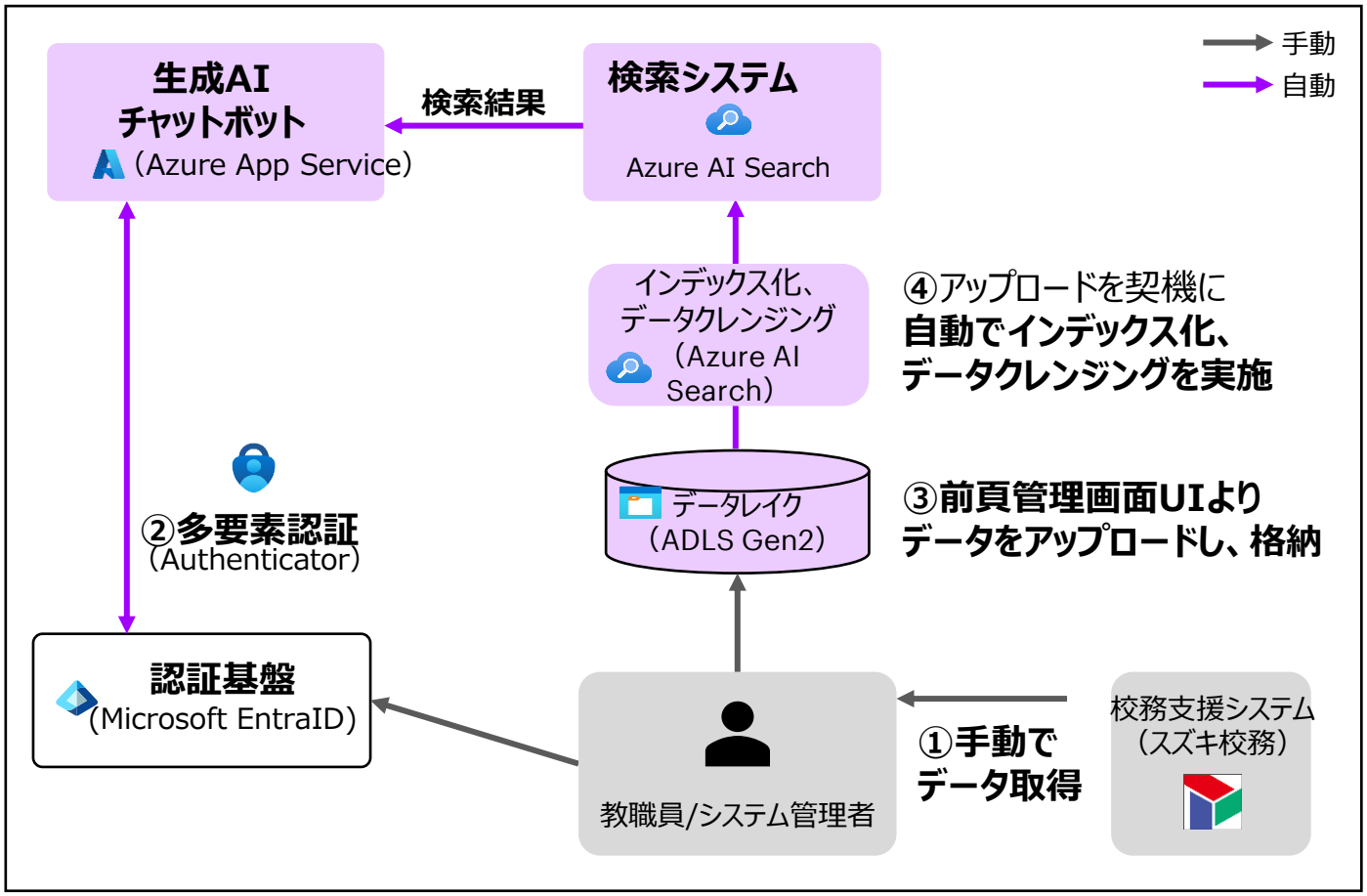


Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.3 データレイクの運用方法：システム概要

管理者の教職員等がチャットボットUIからデータをアップロードすることで、自動的に検索に必要な処理が行われ、AIチャットボットの検索結果に反映される形で運用している。

データレイクに関わるシステム概要図



③データのアップロード機能については、11月末に校務支援システム以外のデータにも対応する開発が完了し、12月より教職員による運用を開始した

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.3 データレイクの運用方法：データレイクを構成する校務データ（1/2）

データレイクは校務システムデータ及びその他のデータにて構成。校務データシステムは、実際に各校で校務システムに入力されている情報のうち、そのまま読込・書出可能な情報全てを格納した。

カテゴリ	各機能一覧	書き出し可能ファイル			データ有無		格納可否	備考
		CSV	DAT	XML	小学校	中学校		
名簿	**基本名簿**	○			○	○	○	-
	詳細名簿	○			○	○	○	-
	名簿レイアウト		○					児童・生徒のデータではない
	在籍一覧							-
出欠席	出席簿							-
	出欠状況	○			○	○	○	-
	皆出席一覧	○			○	○	○	-
成績処理	補助簿							-
	テスト入力・試験入力							-
	評価・評定作成							-
	テスト集計・試験集計	○			○		○	小学校のみ
生活記録	日々の様子		○		○	○		生成AIに格納可能な形式での書出は不可
	生徒指導							-
	生徒の履歴							-
通知表	通知表レイアウト		○	○				児童・生徒のデータではない
	成績入力							-
	成績一覧表	○						学校で情報入力がされていない
指導要録	成績入力							-
	成績一覧表	○						学校で情報入力がされていない

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.3 データレイクの運用方法：データレイクを構成する校務データ（2/2）

校務システム以外のデータとして、指導計画や指導事案、評価アンケート結果、所見表記ルールに関する校内文書等、学校によって多様な情報が取り込まれた。

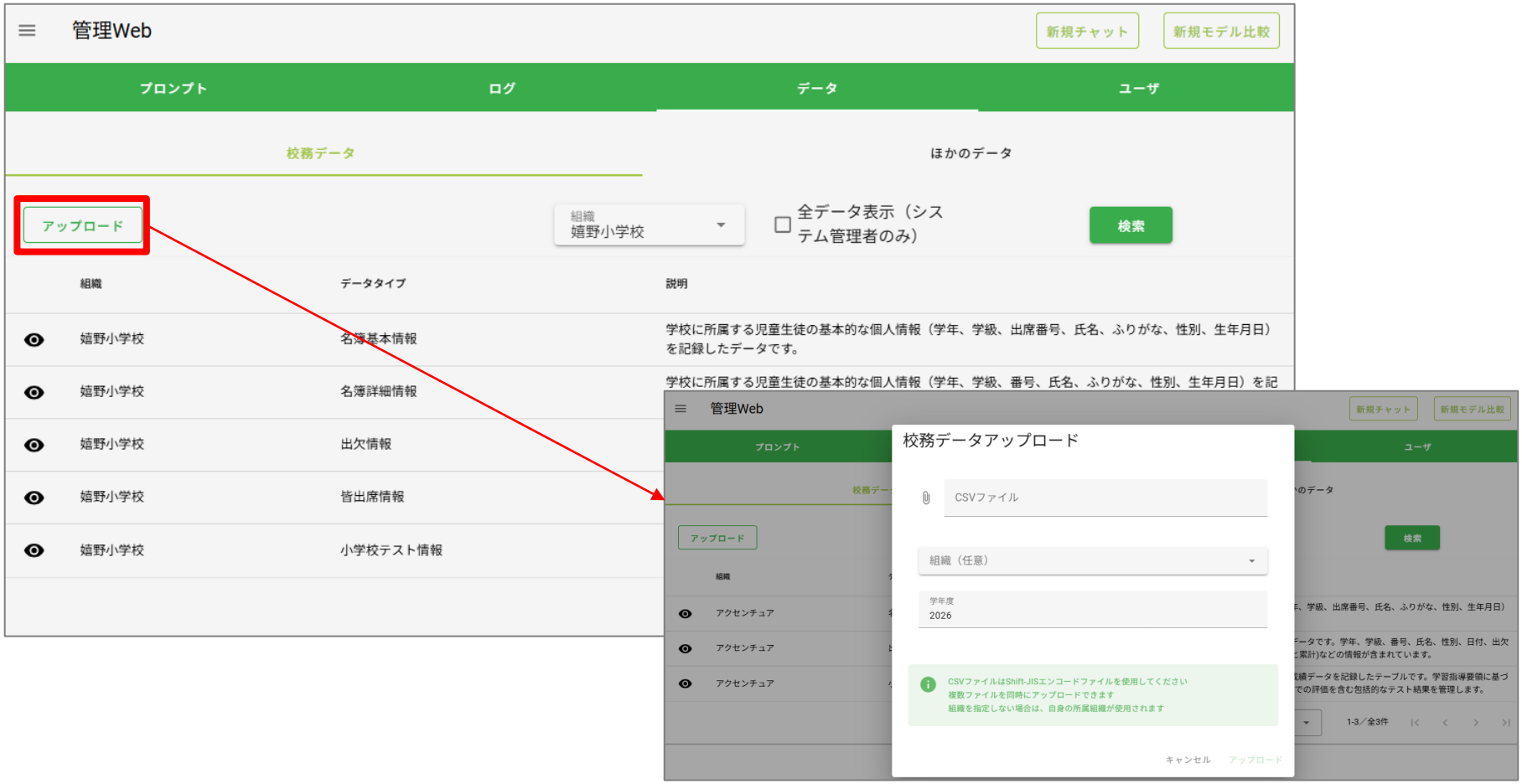
カテゴリ	取り込みデータ	取り込み目的（用途）
指導計画	個別の教育支援計画・指導計画（特別支援学級）	特別支援を要する生徒の指導計画の記録・参照
	月次生徒指導計画	生徒指導事案の記録・月別管理
	年間指導計画	授業計画の参照・作成支援
アンケート	学校評価アンケート結果（保護者・児童・職員）	学校評価の集計・分析・改善検討
	いじめ・体罰アンケート結果（保護者・職員）	いじめ・体罰の実態把握・記録管理
	学校生活アンケート	児童の学校生活状況の定期的な把握
成績	通知表・指導要録の表記ルール文書	所見の表記ルールの参照・校内統一
	成績評価表・通知表データ	成績管理・通知表作成支援
お知らせ	保護者向け連絡文書・案内文	保護者への情報共有・連絡記録
	職員会議資料・学校通信	校内情報共有・会議記録管理
その他	その他文書（論文表記参考資料等）	校務補助資料・参考文書

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.3 データレイクの運用方法：校務システムデータアップロード方法

チャットボット管理画面上からGUIでアップロードする機能を提供。構築初期は弊社含むシステム運用者がアップロードを行い、以降はシステム運用者のサポートのもと、教職員で運用した。

校務システムのデータ管理・アップロード画面

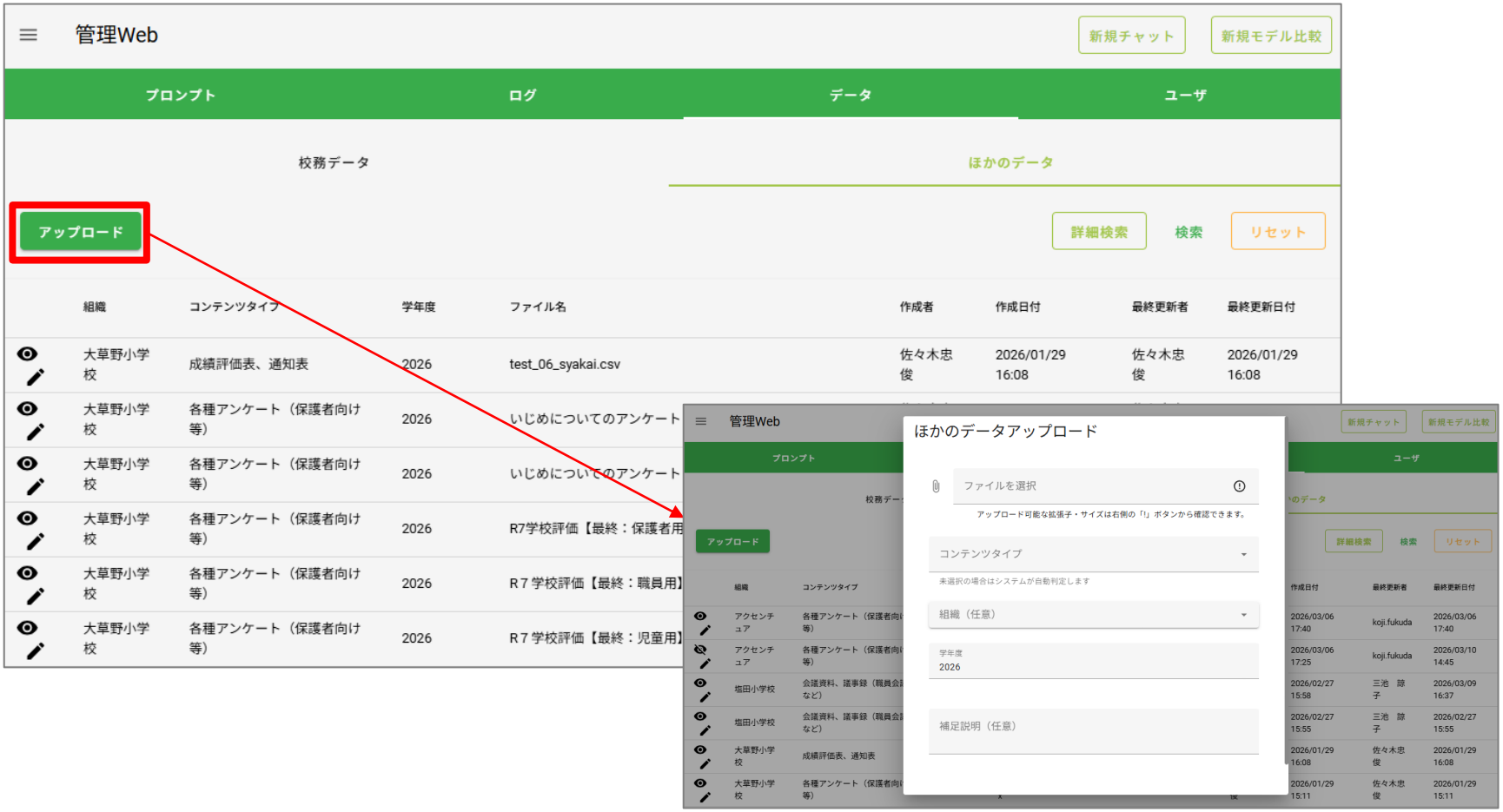


Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.3 データレイクの運用方法：ほかのデータアップロード方法

校務システムデータと同様、チャットボットの管理画面上からアップロードする機能を提供している。
12月より、システム運用者のサポートのもと、教職員で運用した。

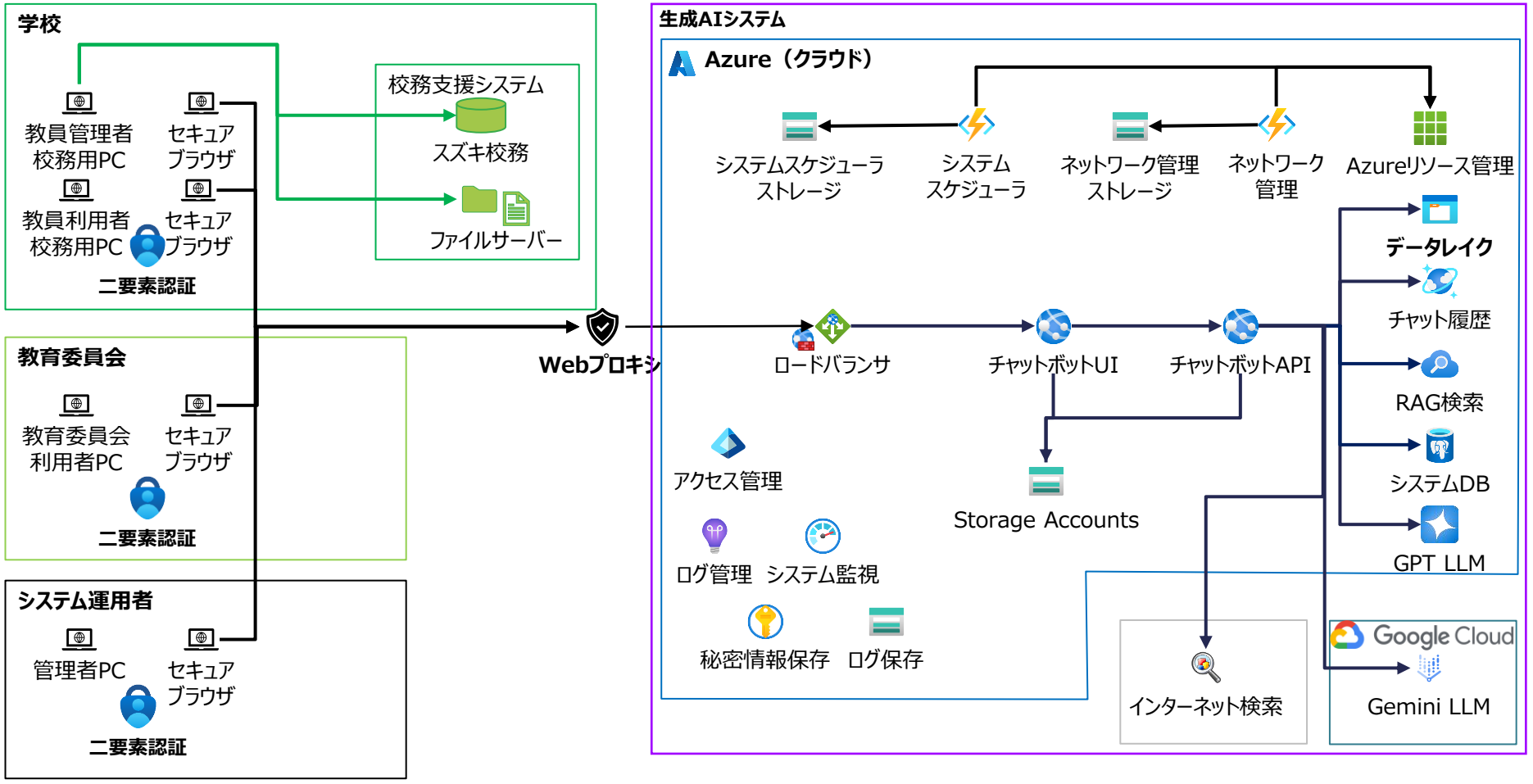
ほかのデータ管理・アップロード画面



Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

3.4 ネットワーク構成・セキュリティ対策等

セキュアブラウザにて論理的に隔離された環境から二要素認証を用いて、国内リージョンに構築された生成AIシステムにアクセスする構成である。



Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

目次

1. はじめに
   - 1.1 本事業の趣旨・目的
2. 実証研究の概要
   - 2.1 実証研究の目的
   - 2.2 実証地域
   - 2.3 実証期間（全体スケジュール）
   - 2.4 推進体制
3. 実施環境とシステム構成
   - 3.1 セキュアな利用環境
   - 3.2 対話型生成AIチャットボット
   - 3.3 データレイクの運用方法
   - 3.4 ネットワーク構成・セキュリティ対策等
4. **運用方法と管理**
   - **4.1 ユーザー認証方法・権限設定**
   - **4.2 利用ログ管理**
   - **4.3 保守体制**
5. 活用促進とサポート体制
   - 5.1 教職員への活用促進施策
   - 5.2 活用促進の実施方法
   - 5.3 サポート体制
6. 実証結果と効果
   - 6.1 横展開可能な好事例の創出
   - 6.2 効果的な活用促進パッケージの整理
7. 課題と解決策
   - 7.1 実証を通じて見えた課題
   - 7.2 課題の解決策
   - 7.3 残課題
8. 今後の展望
   - 8.1 生成AIの校務活用拡大に向けた要諦
   - 8.2 他自治体へ展開する場合のロードマップ案

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

4.1 ユーザー認証方法・権限設定　ユーザ認証

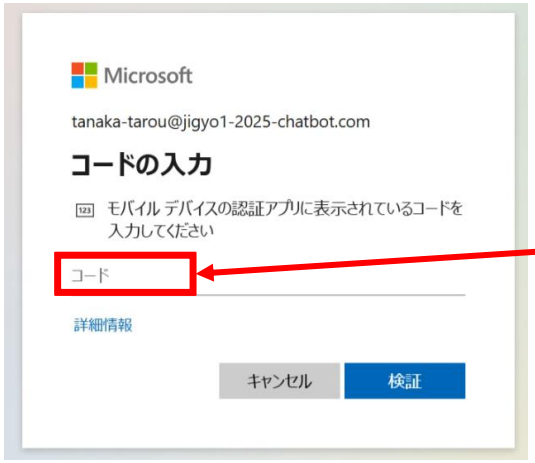
生成AIチャットボットにて発行したID・パスワードに加えて、校務PCにインストールした二要素認証アプリで生成されるコードを用いて二要素認証を実施している。

生成AIログイン画面

①パスワードを入力



②二要素認証コードを入力



二要素認証アプリ画面

①アプリから二要素認証コードが生成

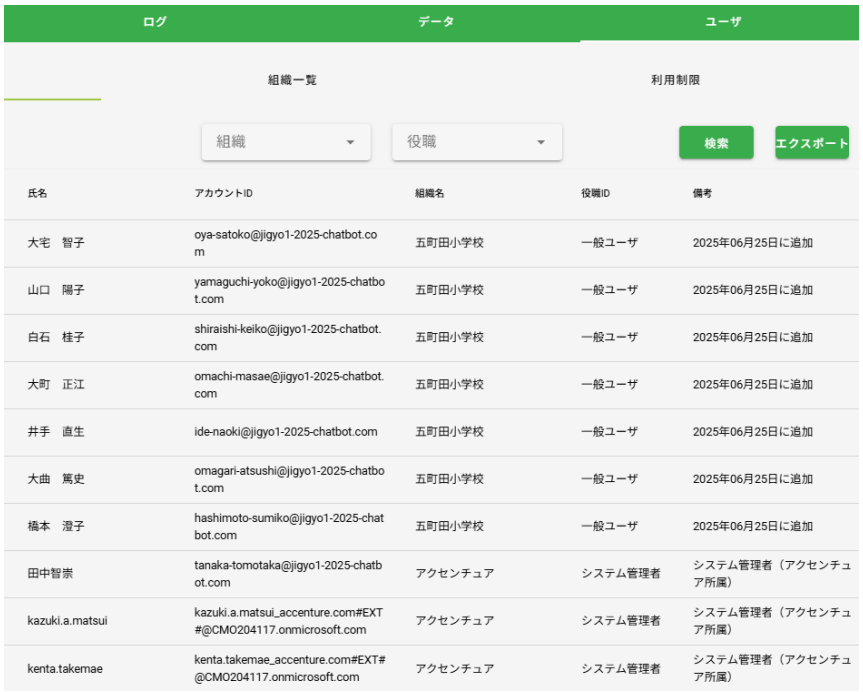


Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

4.1 ユーザー認証方法・権限設定　権限設定

システム全体・組織内の設定管理に関連して、3種類のユーザ権限を定義し、各ユーザに必要最小限の権限を付与している。

ユーザ管理画面



権限

ユーザ	利用	組織管理	全体管理
	チャットボットの利用が出来る	所属組織（学校）のプロンプトテンプレートやユーザ等を管理できる	全組織のプロンプトテンプレートやユーザ等を管理が出来る
システム管理者	○	○	○
組織管理者	○	○	×
一般ユーザ	○	×	×

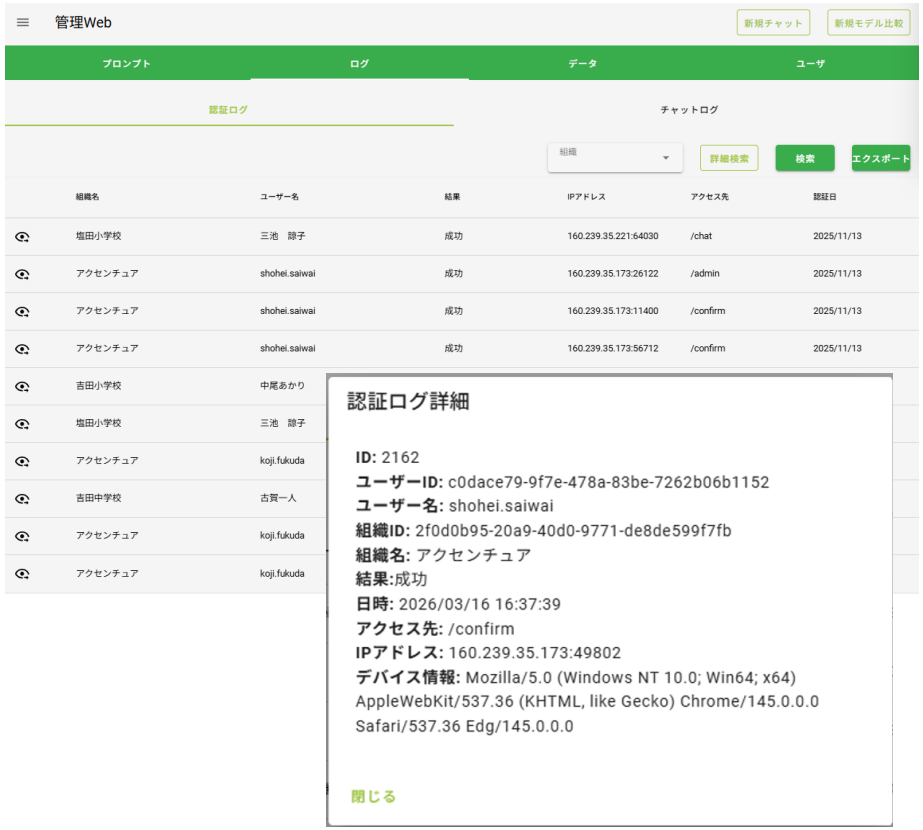
Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

4.2 利用ログ管理　ログ管理画面

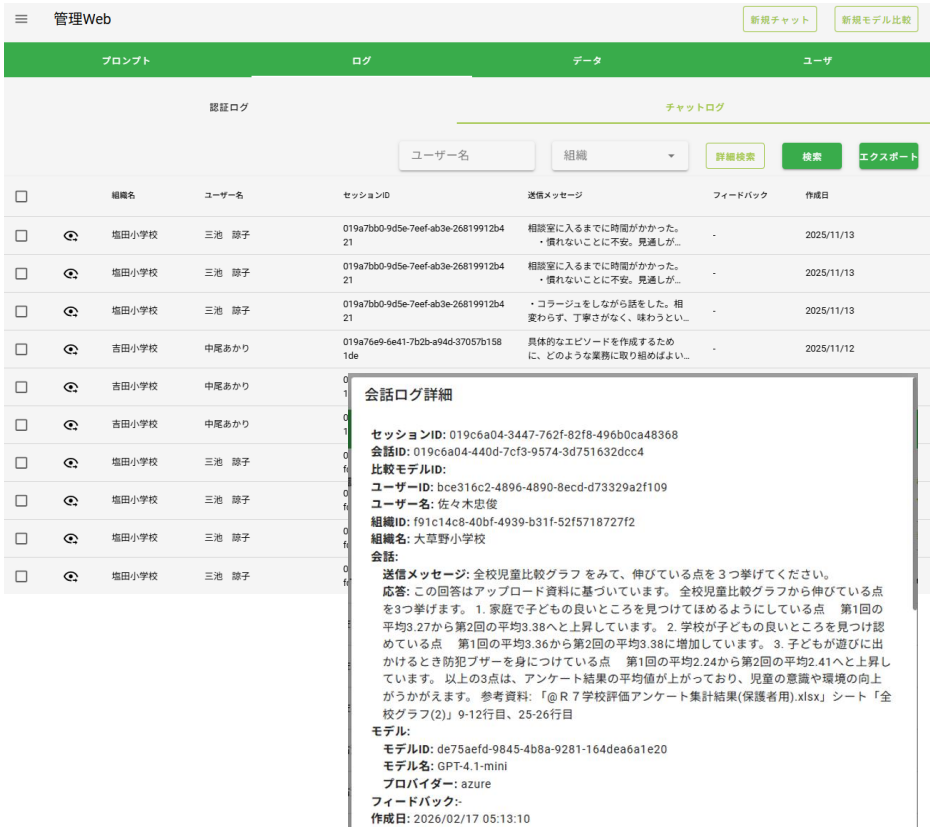
チャットボットの管理画面にて認証ログおよびチャットログを、UI上で詳細も含めて確認し、CSVでのエクスポートも可能である。

チャットボットログ管理画面

認証ログ



チャットログ



Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

4.2 利用ログ管理　チャットログファイル

どの学校の誰がどのような質問をしてどのように回答したのかをひとまとまりとし、その回答へのフィードバックおよび一連の会話のラリーも識別可能となっている。

一連の会話ラリーを識別

1回の質問・回答を識別

所属校・ユーザ名

ユーザの質問

AIの回答

回答に対するフィードバックがあれば記録

session_id	versation_id	created_at	user_id	name	organization_name	query	response	model_name	feedback_status	retrieved_resources
01986307-d	01986308-1	2025-08-01	e4fdd9e7-b5	嬉野 太郎	大野原中学	文化祭の日程を作ってください	文化祭の日程案についてご提案いたします。 【文化祭の日程構成案】 1. 開催時期 一般的に多くの小中学校では、10月	gpt-4.1-mini		internet, school_af
0198630a-6	0198630a-7	2025-08-01	455c4ba2-22	嬉野 次郎	嬉野中学校	オノマトペは日本語特有のものなのか。	ご質問ありがとうございます。 オノマトペ（擬音語・擬態語）は、日本語に非常に豊富で特徴的に存在していますが、決して日本語特有のものではあ	gpt-4.1-mini		
01986310-e	01986310-ff	2025-08-01	e4fdd9e7-b5	嬉野 三郎	大野原中学	中学校国語ヒューマノイドの指導案を作ってください	かしこまりました。中学校国語科で「ヒューマノイド」を題材とした指導案の例を作成いたします。	gpt-4.1-mini		

ダミーデータ

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

4.3 保守体制

嬉野市の校務システムや校内NW機器等をサポートしている地場ベンダと連携して、ヘルプデスク対応のプル型サポートを実施した。

	教職員からの問い合わせへの対応	活用を進めるための働きかけ
地場ベンダ	**役割** ➢ **電話やメールでの教職員からの問合受付（1次窓口）** • チャットボット操作説明 • 新規着任ユーザー導入支援 • 各種現地調査 **サポート内容** ✓ パスワード再発行受付 ✓ チャットボット初期設定サポート ✓ 二要素認証設定サポート ✓ 現地でのエラー確認 ✓ 初回作業伴走サポート	**役割** ➢ 現地フォローの実行 • 高活用ユーザーのさらなる促進新 • 追加機能の導入支援 **サポート内容** ✓ 活用状況・意向ヒアリング • 活用して良かった点・困っている点 • 今後試してみたい活用シーン ✓ 活用方法のアドバイス ✓ データ取り込み作業サポート **5.3 サポート体制にて詳述**
ACN	**役割** ➢ **学映システムからの問合受付（2次窓口）** • システム詳細の調査・改修 • システム操作説明整備 **サポート内容** ✓ パスワード再発行 ✓ システムのエラー調査、対策検討、改修 ✓ 学映システムからの問合せ回答 ✓ チャットボット・二要素認証マニュアル更新	**役割** ➢ 現地フォローの計画 • フォロー対象校・対象ユーザー見極め • フォロー内容整理 **サポート内容** ✓ 活用ログのモニタリング ✓ 高活用ユーザーと主な利用方法の調査 ✓ 現地での働きかけ方針の詳細化

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

目次

1. はじめに
   - 1.1 本事業の趣旨・目的
2. 実証研究の概要
   - 2.1 実証研究の目的
   - 2.2 実証地域
   - 2.3 実証期間（全体スケジュール）
   - 2.4 推進体制
3. 実施環境とシステム構成
   - 3.1 セキュアな利用環境
   - 3.2 対話型生成AIチャットボット
   - 3.3 データレイクの運用方法
   - 3.4 ネットワーク構成・セキュリティ対策等
4. 運用方法と管理
   - 4.1 ユーザー認証方法・権限設定
   - 4.2 利用ログ管理
   - 4.3 保守体制
5. **活用促進とサポート体制**
   - **5.1 教職員への活用促進施策**
   - **5.2 活用促進の実施方法**
   - **5.3 サポート体制**
6. 実証結果と効果
   - 6.1 横展開可能な好事例の創出
   - 6.2 効果的な活用促進パッケージの整理
7. 課題と解決策
   - 7.1 実証を通じて見えた課題
   - 7.2 課題の解決策
   - 7.3 残課題
8. 今後の展望
   - 8.1 生成AIの校務活用拡大に向けた要諦
   - 8.2 他自治体へ展開する場合のロードマップ案

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

5.1 教職員への活用促進施策：全体像

5種類のメニューで設計。全体向けにはコンテンツの届けやすさを重視して動画・資料提供を中心とし、個別校向けには個別にだからこそできる具体的・双方向的な支援を実施した。

研修の目的	● ユーザーがAIチャットボットを**スムーズに利用**できるようになること ● ユーザーの生成AI校務活用への意欲を向上させ、実際の**アクションまで促す**こと

全体向け

1 研修動画

✓ AIの概論から具体的な活用事例まで、**教職員の理解度に応じて動画で幅広く情報提供**する



2 集合研修

✓ 教職員と有識者（小崎座長）との意見交換を通じて**活用のヒント獲得・モチベーションアップ**を図る



3 プロンプト集・事例ペーパー

✓ **活用イメージを喚起**して利用のハードルを下げながら、**段階的にセキュアな環境ならではの活用につなげる**



個別校向け

4 ワークショップ

✓ 一方的な情報提供ではなく、教職員との**双方向的なやり取りを通じて活用のイメージ喚起や事例創出**を図る



5 訪問・オンライン・Telフォロー

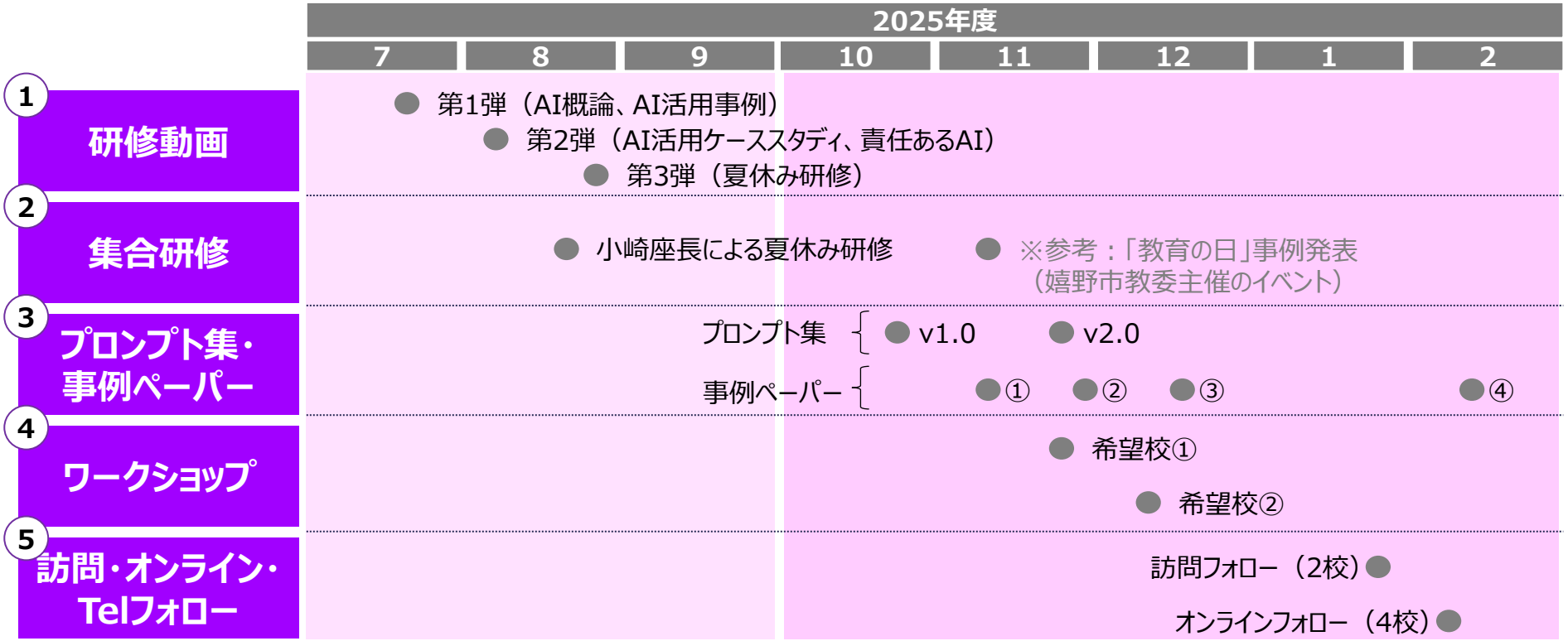
✓ 活用ログ等を踏まえた**個別具体的な情報提供や今後の活用方法をリコメンド**し、**確実なアクション**に繋げる



Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

5.1 教職員への活用促進施策：スケジュール

事業初期は研修動画資材の拡充に、事業後半からは忙しいなかでも活用イメージを知りたい・体験したい現場の声を踏まえ、より手軽な情報提供やアクション促進の場づくりに注力した。



事業初期は研修資材拡充・活用立上げに注力

現場の声から、活用イメージを手軽に知りたい・体験したいニーズを検知し、後半はよりライトな情報提供・個別具体なアクション促進に注力

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

5.2 活用促進の実施方法：施策設計で工夫が必要だった点

各種施策を設計するにあたっては、実証地域の課題感を踏まえ「いかにして教職員全体へ届けるか」および「いかにして主体的活用を生み出すか」への工夫が必要であった。

工夫すべき点	実証地域の課題感	
いかにして教職員全体へ届けるか	スケジュールの制約	● 教員は勤務時間中に**多くの授業を抱えている**ため、平常日では**リアルタイムで研修に参加できない教職員が一定数生じてしまう**
	環境の制約	● 勤務校の**職員室以外へのPC持ち出しができない** ● 学校横断で集まる場合、**出張申請等の事務手続き負担**が大きい
いかにして主体的活用を生み出すか	教職員ごとの個人差	● 生成AIの**理解度・活用への期待感は教職員ごとにさまざま**であるため、画一的なコンテンツを一律に届けるだけでは本事業で目指したい活用に繋がらない可能性が高い • 生成AIにこれまで触れてこなかった教職員：**AIチャットボットを通じてできることのイメージ**が湧かないと、そもそもの一歩目を踏み出すのが難しい • 生成AIに触れたことがあり一定程度理解のある教職員：一般的な活用イメージはあるからこそ、**セキュアな環境ならではの校務活用イメージを喚起**しないと、今までの延長線の利用で終わってしまう
	活用意欲の持続	● 非日常的な場としての「研修」だけでは、**義務的に受けるのみでアクションに繋がらなかったり、一時的に上がった活用意欲もすぐ冷めてしまう**

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

5.2 活用促進の実施方法：教職員全体へ届けるための工夫

教職員全体へ届けるための工夫として、コンテンツのオンライン配信、生成AI部会のネットワーク活用、校内研修の枠内での実施を行った。

工夫すべき点	実証地域の課題感	本事業における工夫
いかにして教職員全体へ届けるか	スケジュールの制約 環境の制約	**オンラインでのコンテンツ配信（簡易的e-learning方式）を中心としたオンサイトとのハイブリッド形式** • 教職員が予定に縛られず都合のいいタイミングで受講できるように、**研修コンテンツ（資料・動画）をオンライン上の配信サイトに配置**（現地で実施した全体研修も、レコーディングをオンラインで配信） • 現場ニーズに応じて、学校へ伺い実施する研修やワークショップ等の機会は維持
いかにして主体的活用を生み出すか	教職員ごとの個人差	**生成AI部会のネットワークを利用し、各校へ効率的に伝播** • 各校教頭先生が委員として参画している**生成AI部会が市教委・弊社と学校現場のハブ**となり各種コンテンツや情報提供がスムーズに浸透する土壌を構築
	活用意欲の持続	**校内研修の枠内で実施（現地実施の場合）** • 教職員の参加負荷を高めずに勤務時間の中で最大限の教職員が参加可能な建て付けとして、現地で研修・ワークショップを行う際は**校内研修の枠として実施**いただくよう調整

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

5.2 活用促進の実施方法：主体的活用を生み出すための工夫

主体的活用を生み出すための工夫として、ワークショップ形式による体験的・双方向的な場の提供、レベル別・段階的なコンテンツ提供、コンテンツのライト化・定期発信化を行った。

工夫すべき点	実証地域の課題感	本事業における工夫
いかにして教職員全体へ届けるか	スケジュールの制約 環境の制約	**ワークショップ形式による体験的・双方向的な場の提供** • 一方向的な講義形式ではなく、実際に**その場でAIチャットボットを利用**いただきながら**教職員間で感想をシェアしてもらい反応を聴取**するワークショップ形式の場を設定することで、体験性と双方向性を生み実施後も活用が持続することを狙った
いかにして主体的活用を生み出すか	教職員ごとの個人差	**レベル別・段階的なコンテンツ提供** • 主な利用シーンの**プロンプトを活用レベルごとに3パターン**用意し、自身の理解度・活用度に応じた使い分けの導線を設計 • 活用事例も、セキュアな環境に限らずすぐ実践できるものから提供し、最終的にはセキュアな環境ならではケースを紹介
	活用意欲の持続	**コンテンツのライト化・定期発信化** • 繁忙のなかでも教職員が無理なく確認できるよう、活用事例資料は**Wordファイル両面1枚までのライトなボリューム**に留める • **2～3週間ペースでの定期発信期間**を設けて、生成AI活用意欲を持続的に喚起

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

5.2 （参考）工夫の具体例 活用シーン･プロンプト集（2/4）

項目	具体的な利用シーン
報告書・計画書の作成	研修報告書を作成する際、参加者の感想や学びのポイントをまとめたい。

【Step1】ほぼそのままコピペして使える、シンプルなプロンプト
※学年・教科等はご自身の担当に合わせて適宜修正ください

校内研修の報告書のテンプレートを作成してください。

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

5.2 （参考）工夫の具体例 活用シーン･プロンプト集（3/4）

項目	具体的な利用シーン
報告書･計画書の作成	研修報告書を作成する際、参加者の感想や学びのポイントをまとめたい。

【Step2】より品質の高い回答を得るためのプロンプト
※狙いに合わせて「#条件」以下を修正してください

あなたは、長年、研修主任を務めてきた経験豊富な先生です。
研修の価値を最大限に高めるためには、実施後の振り返りと記録がいかに重要かを熟知しています。

 # 背景
私たちの学校では、校内研修の報告書の形式が統一されておらず、作成者によって内容の詳しさや形式にばらつきがあります。
そこで、誰でも簡単に、かつ研修の成果が明確に伝わる報告書を作成できるよう、標準的なテンプレートを導入したいと考えています。

 # 依頼事項
以下の要件を満たす、校内研修報告書のテンプレートを作成してください。
テンプレートは、報告者が内容を書き込めるように、具体的な内容は含めず、項目名と記入のためのガイドのみにしてください。

 # テンプレートに含めるべき項目
- 基本情報（研修名、実施日時、場所、講師名、対象者、参加者名）
- 研修の目的（この研修で何を達成することを目指したか）
- 研修内容の要約（どのような活動や講義が行われたかの概要）
- 主な成果と学び（研修を通して得られた知識・スキル、新たな気づきなど）
- 今後の実践への活用案（学んだことを、自身の授業や学級経営にどう活かすか）
- 今後に向けた課題や提言（研修内容や運営に関する改善点、次年度研修への要望など）

 # 出力形式
- 「#」の見出しと「-」の箇条書きのみを使用した、シンプルな形式でお願いします。
- 利用者が直感的に使えるよう、記入内容の例を[ ]で補足してください。

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

5.2 （参考）工夫の具体例 活用シーン･プロンプト集（4/4）

項目	具体的な利用シーン
報告書･計画書の作成	研修報告書を作成する際、参加者の感想や学びのポイントをまとめたい。

【Step3】セキュアな環境だからこそできる、校内データを活用した回答を得るプロンプト
※狙いに合わせて「＃条件」以下を修正してください

あなたは、校内研修を担当する研究主任です。研修の成果を次年度の学校運営に活かすため、参加者の学びや意見を的確に整理し、質の高い報告書を作成することを得意としています。

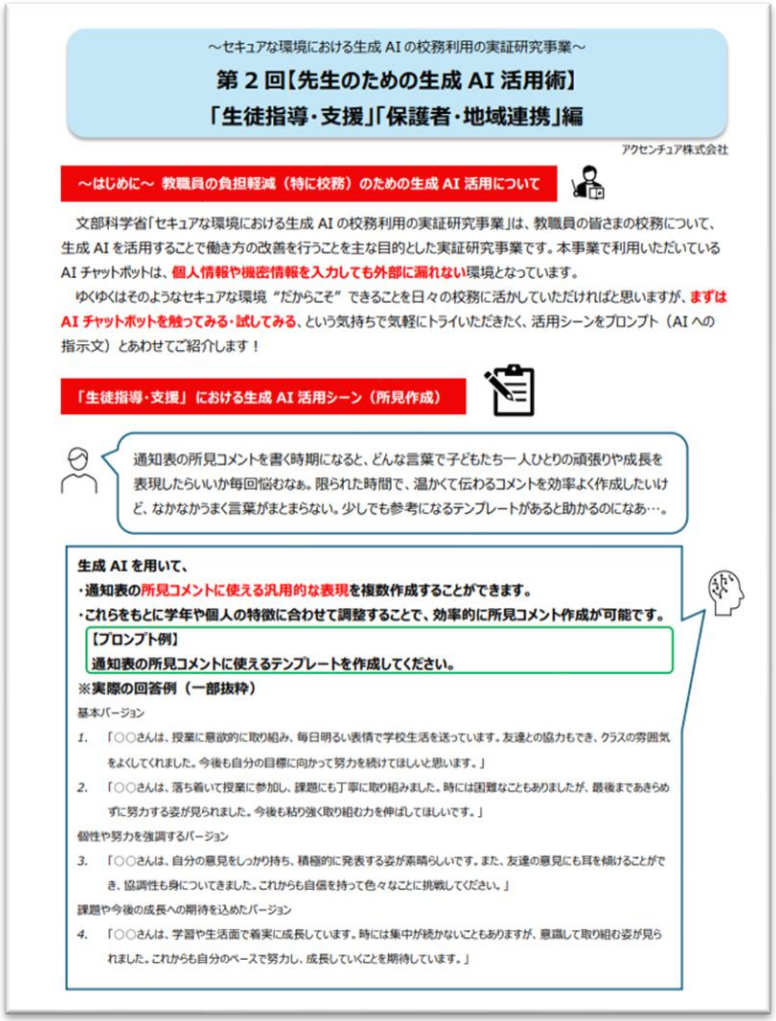
＃ 背景
先日実施した校内研修について、教育委員会に提出するための報告書を作成する必要があります。研修後のアンケートは回収済みですが、自由記述欄の多くの意見をどのように整理し、報告書にまとめればよいか悩んでいます。

＃ 依頼
「令和〇年度_初任者研修アンケート」から、報告書に記載すべき重要なポイントを抽出し、指定の形式で要約してください。

＃ 条件
- 構成: 昨年の**「初心者研修報告書」**の構成を守る

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

5.2 （参考）工夫の具体例 活用事例紹介ペーパー



～セキュアな環境における生成 AI の校務利用の実証研究事業～

第 2 回【先生のための生成 AI 活用術】

「生徒指導・支援」「保護者・地域連携」編

アクセンチュア株式会社

～はじめに～ 教職員の負担軽減（特に校務）のための生成 AI 活用について

文部科学省「セキュアな環境における生成 AI の校務利用の実証研究事業」は、教職員の皆さまの校務について、生成 AI を活用することで働き方の改善を行うことを主な目的とした実証研究事業です。本事業で利用いただいている AI チャットボットは、**個人情報や機密情報を入力しても外部に漏れない**環境となっています。

ゆくゆくはそのようなセキュアな環境 “だからこそ” できることを日々の校務に活かしていただければと思いますが、**まずは AI チャットボットを触ってみる・試してみる**、という気持ちで気軽にトライいただきたく、活用シーンをプロンプト（AI への指示文）とあわせてご紹介します！

「生徒指導・支援」における生成 AI 活用シーン（所見作成）

通知表の所見コメントを書く時期になると、どんな言葉で子どもたち一人ひとりの頑張りや成長を表現したらいいか毎回悩むなぁ。限られた時間で、温かくて伝わるコメントを効率よく作成したいけど、なかなかうまく言葉がまとまらない。少しでも参考になるテンプレートがあると助かるのになあ…。

生成 AI を用いて、

・通知表の所見コメントに使える汎用的な表現を複数作成することができます。

・これらをもとに学年や個人の特徴に合わせて調整することで、効率的に所見コメント作成が可能です。

【プロンプト例】

通知表の所見コメントに使えるテンプレートを作成してください。

※実際の回答例（一部抜粋）

基本バージョン

1. 「○○さんは、授業に意欲的に取り組み、毎日明るい表情で学校生活を送っています。友達との協力もでき、クラスの雰囲気をよくしてくれました。今後も自分の目標に向かって努力を続けてほしいと思います。」
2. 「○○さんは、落ち着いて授業に参加し、課題にも丁寧に取り組みました。時には困難なこともありましたが、最後まであきらめずに努力する姿が見られました。今後も粘り強く取り組む力を伸ばしてほしいです。」

個性や努力を強調するバージョン

3. 「○○さんは、自分の意見をしっかり持ち、積極的に発表する姿が素晴らしいです。また、友達の意見にも耳を傾けることができ、協調性も身についてきました。これからも自信を持って色々なことに挑戦してください。」

課題や今後の成長への期待を込めたバージョン

4. 「○○さんは、学習や生活面で着実に成長しています。時には集中が続かないこともありますが、意識して取り組む姿が見られました。これからも自分のペースで努力し、成長していくことを期待しています。」



「保護者・地域連携」における生成 AI 活用シーン（地域イベントの企画）

地域の行事に子どもたちがもっと積極的に関わる方法を探しているが、毎年同じような内容でマンネリ化を感じている。せっかくなら、児童が主体的に参加しながら、子どもたち一人ひとりの意欲や個性を引き出せる新しい企画を考えたいなぁ。

生成 AI を用いて、

・アイデア出しを行うことができます。

・よさそうなアイデアがあれば、さらに対話を続けて詳細内容や準備方法を補足させることもできます。

【プロンプト例】

地域の祭りやイベントで児童が主体的に参加できる新しい企画を 3 つ提案してください。

※実際の回答例（一部抜粋）

はい、地域の祭りやイベントで児童が主体的に参加できる新しい企画を 3 つご提案します。

1. こども屋台チャレンジ

児童がグループごとに屋台（食べ物、ゲーム、クラフトなど）を企画・運営します。メニューやルール決め、看板制作、お金の管理などを自分たちで考え、当日は実際にお店を運営します。準備段階から地域の大人やスタッフがサポートし、ビジネス体験やチームワーク、コミュニケーション力を育めます。

3. みんなで作る巨大アートプロジェクト

児童たちが協力して一つの大きなアート作品（壁画、モザイクアート、オブジェなど）を制作します。テーマやデザインも子どもたちが話し合って決定し、当日は来場者も巻き込んで完成を目指します。地域のシンボルとなる作品を作ることで、達成感や地域への愛着も高まります。

AI チャットボット活用お役立ち情報

ログイン方法を忘れてしまった……	以下サイトから、ログインマニュアルをご覧いただけます 生成 AI マニュアル – 姫野市教職員向けコンテンツ配信サイト
他にどんな活用シーンがあるの？	以下サイトから、利用シーンとプロンプト集をご覧いただけます ユースケース・プロンプト集 – 姫野市教職員向けコンテンツ配信サイト
研修資料や動画を見たい	以下サイトに各種コンテンツを格納しております 姫野市教職員向けコンテンツ配信サイト
AI チャットボットで分からないことはどこに問い合わせたらいいの？	以下サイトから、メール・お電話・問い合わせフォームでお尋ねください https://sienportal.jp/412091-ureshino/

ボリューム感・発信頻度・内容構成

- ✓ 忙しくても目を通せる、**両面1枚に活用事例2つのライトなボリューム感**
- ✓ 発信期間内で**2-3週に1回のペースで定期的に提供**
- ✓ 教職員の困り→プロンプト例→出力例の順序で、**そのまま読んで活用イメージが湧く**ように紹介

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

5.3 サポート体制

嬉野市の校務システムや校内NW機器等をサポートしている地場ベンダと連携して、ヘルプデスク対応のプル型サポートを実施した。

	教職員からの問い合わせへの対応	活用を進めるための働きかけ
地場ベンダ	**役割** ➢ 電話やメールでの教職員からの問合受付（1次窓口） • チャットボット操作説明 • 新規着任ユーザー導入支援 • 各種現地調査 **サポート内容** ✓ パスワード再発行受付 ✓ チャットボット初期設定サポート ✓ 二要素認証設定サポート ✓ 現地での[illegible] ✓ 初回作業伴走サポート	**役割** ➢ **現地フォローの実行** • 高活用ユーザーのさらなる促進新 • 追加機能の導入支援 **サポート内容** ✓ 活用状況・意向ヒアリング • 活用して良かった点・困っている点 • 今後試してみたい活用シーン ✓ 活用方法のリコメンド ✓ データ取り込み作業サポート
ACN	**役割** ➢ 学映システムからの問合受付（2次窓口） • システム詳細の調査・改修 • システム操作説明整備 **サポート内容** ✓ パスワード再発行 ✓ システムのエラー調査、対策検討、改修 ✓ 学映システムからの問合せ回答 ✓ チャットボット・二要素認証マニュアル更新	**役割** ➢ **現地フォローの計画** • フォロー対象校・対象ユーザー見極め • フォロー内容整理 **サポート内容** ✓ 活用ログのモニタリング ✓ 高活用ユーザーと主な利用方法の調査 ✓ 現地での働きかけ方針の詳細化

4.3 保守体制にて詳述

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

目次

1. はじめに
   - 1.1 本事業の趣旨・目的
2. 実証研究の概要
   - 2.1 実証研究の目的
   - 2.2 実証地域
   - 2.3 実証期間（全体スケジュール）
   - 2.4 推進体制
3. 実施環境とシステム構成
   - 3.1 セキュアな利用環境
   - 3.2 対話型生成AIチャットボット
   - 3.3 データレイクの運用方法
   - 3.4 ネットワーク構成・セキュリティ対策等
4. 運用方法と管理
   - 4.1 ユーザー認証方法・権限設定
   - 4.2 利用ログ管理
   - 4.3 保守体制
5. 活用促進とサポート体制
   - 5.1 教職員への活用促進施策
   - 5.2 活用促進の実施方法
   - 5.3 サポート体制
6. **実証結果と効果**
   - **6.1 横展開可能な好事例の創出**
   - **6.2 効果的な活用促進パッケージの整理**
7. 課題と解決策
   - 7.1 実証を通じて見えた課題
   - 7.2 課題の解決策
   - 7.3 残課題
8. 今後の展望
   - 8.1 生成AIの校務活用拡大に向けた要諦
   - 8.2 他自治体へ展開する場合のロードマップ案

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

6. 実証結果と成果サマリ

本事業期間で、業務の高度化・効率化につながる生成AI校務利用事例を創出できたほか、実際のアクションを促す効果的な研修・活用促進パッケージを整理することができた。

本事業で目指していた成果

好事例創出
（答えるべき問い）

- セキュアな環境での生成AIの校務利用が、いかに業務の**高度化**につながったか
- セキュアな環境での生成AIの校務利用が、いかに業務の**効率化**につながったか

＋

効果的研修

- ユーザーがAIチャットボットを**スムーズに利用**できるようになること
- ユーザーの生成AI校務活用への意欲を向上させ、**実際のアクション**まで促すこと

実証結果と成果

横展開可能な好事例創出

✓ 活用ログや実証地域のイベントでの事例発表等を通じて、**高度化・効率化それぞれの観点で好事例を創出**
- 必ずしもセキュアな環境に限らないが、生成AIという仕組み自体で実現できるケース
- セキュアな環境だからこそ実現できるケース

効果的な研修・活用促進パッケージ整理

✓ 事後アンケートでは**55%の教職員が「週1回以上生成AI*を校務活用」**と回答し、**日常的な生成AIの活用が浸透**
（*：本事業で構築したAIチャットボットに限らず、汎用の生成AI利用も含む）

✓ 教職員の声をもとに、特に**活用促進効果の高かった取り組みをピックアップし、得られた示唆から年間の支援パッケージ案を整理**

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

6.1 横展開可能な好事例の創出

活用ログや実証地域のイベントでの事例発表等を通じて、高度化・効率化それぞれの観点で好事例を創出できた。セキュアな環境だからこそのケースを後述する。

	レベル① 生成AIという仕組みを活かして実現できるケース	レベル② セキュアな環境だからこそ実現できるケース
所見作成	生成AIとの壁打ちを通じた所見案作成 高度化 効率化	**校内文書およびドラフト版所見を用いた精緻な校正** 高度化 効率化
報告書等の素案作成	イベント概要をプロンプトに打ち込んでの、案内文案作成 高度化 効率化	**生徒指導記録を用いた次年度分掌方針案作成** 高度化 効率化
データ分析	ー	**校内アンケートを用いた分析および示唆取りまとめ** 高度化 効率化

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

6.1 好事例：①校内文書およびドラフト版所見を用いた精緻な校正

児童生徒ごとの所見コメント案を、表記に関する校内文書を読み込ませてまとめて校正することで、業務の正確性を向上させるとともに効率化を実現した。

ユースケース概要



先生のお困り

児童生徒の所見コメントは一旦作成した。校正したいけど、通知表・指導要録表記には指定のルールがある。単に生成AIに見てもらうだけだと、一般的な観点の修正にとどまってしまい、別途確認が生じて二度手間になりそうだ……。



データレイクに取り込んだデータ

- 通知表・指導要録の表記について（XX小）



プロンプト

通知表所見の文章中の表記の校正をお願いします。
今から、19名分の所見を入力します。
－－－
・漢字の学習では、ただ繰り返し書くのではなく「覚える」ということを意識して練習するコツを掴み、粘り強く取り組んでいます。～～～（以下略）
－－－
以上が所見です。所見では、表記が厳しく制限されています。
参考資料には、左に訂正すべき表記、右に正しい表記が入力されています。この参考資料をもとに、表記の訂正をお願いします。参考資料には、言葉の一覧があります。送り仮名が所見と違っていても、同じ言葉だと認識すれば、その言葉も訂正をしてください。
参考資料：通知表・指導要録の表記について（XX小）



実践後の感想

文末表現や句読点といった一般的な点だけではなくて、**指定のルールに則った表記になっているかも含めてチェックして訂正版を出力**してくれるから、**かなり手間が軽減**された。

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

6.1 好事例：②生徒指導記録を用いた次年度分掌方針作成

職員会議にて月次で報告していた生徒指導事案を用いて、当年度の傾向を踏まえた次年度の生徒指導部の留意点・活動案をまとめることで、前年踏襲の方針作成から脱却した。

ユースケース概要



先生のお困り

生徒指導部を担当している。分掌の次年度方針を作成する必要があるけれど、年度末で多忙なこともあり、正直なところ毎年ほぼ前年踏襲で済ませてしまっている……。



データレイクに取り込んだデータ

- 職員会議資料（当月発生した生徒指導事案報告）

プロンプト

あなたは生徒指導に長けた経験豊富な教員です。



以下のデータを参照してください。
・R7年度生徒指導部活動方針
・職員会議資料_YYMMDD
・職員会議資料_YYMMDD（以下略）

【依頼内容】
今年度の生徒指導部活動方針と、職員会議で報告した各月の生徒指導事案をもとに、次年度にそれらを減らしていくために生徒指導部として留意すべき点と、具体的な活動方針案を作成してください。



実践後の感想

本校で発生した具体的事案を踏まえた内容になっているので、**前年踏襲したものより納得感・実効性がありそう**だ。イチから自分で考えて作成するのと比べれば、**効率・内容どちらも向上**している。

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

6.1 好事例：③校内アンケートを用いた分析・示唆取りまとめ

校内限りで取り扱っていたアンケート結果をAIチャットボットに取り込み、経時的な傾向や上がり下がりの幅が大きい項目を抽出してそこから見える示唆を出力させ、報告準備を効率化した。

ユースケース概要



先生のお困り

学校評価アンケート等の回答を集計したはいいけど、その**内容分析が大変**だ。過去の結果と比較したときに**どの項目が良好か・要注意か特定**したり、**結果からポイントとして何が言えるかイチから考えたりする時間が充分取れない**……。



データレイクに取り込んだデータ

- 学校評価アンケート回答（保護者・児童・職員）



プロンプト

あなたは教育現場向けの意見分析AIです。

以下のデータを参照してください。
・R7学校評価アンケート集計結果
【依頼内容】
児童のアンケート結果を第１回・第２回での傾向の違いを示してほしい。
全校の結果をもとに数値が上がっている項目と下がっている項目をそれぞれ５つずつ変化が大きい順に教えてほしい
また、それらからいえることをまとめてほしい。
【条件】
児童用のアンケート結果の全校グラフシートのみを対象とする



実践後の感想

手作業で分析して考察していた時と比べて、**学校評議会での報告に向けた準備がかなり効率化**された！出力の品質も概ね満足いくもので、**自分だけでは浮かばない視点から課題や改善アイデアが出た**ので、内容も高度になった。

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

6.2 効果が見られた研修（活用促進）施策とその示唆

アンケートでは①「教育の日」の事例発表②活用シーン・プロンプト集③活用事例資料が活用につながったとの回答が多く、「自分にもできそう」な活用イメージ喚起が肝要である示唆を得た。

順位	活用につながったこと	得票数（加重*）	全体に占める割合	主な理由
1	**「教育の日」での事例発表**	**139**	**37.1%**	具体的な活用場面・事例が得られた(20)／その他（内容が多様：例/感想/評価など）(11)
2	**活用シーン・プロンプト集**	**93**	**24.8%**	すぐ使える（コピペ/プロンプト/テンプレ）(10)／具体的な活用場面・事例が得られた(7)
3	**活用事例紹介ペーパー（先生のための生成AI活用術）**	**92**	**24.5%**	自分の業務に当てはめやすい（適用イメージ）(10)／具体的な活用場面・事例が得られた(8)
4	現地での研修・ワークショップ	25	6.7%	体験できて習得しやすい（研修・ワークショップ）(3)／理解が深まった（メリデメ/考え方の整理）(2)
5	研修動画	17	4.5%	／体験できて習得しやすい（研修・ワークショップ）(1)／形式/説明が分かりやすい（資料・動画）(1)
6	その他	9	2.4%	具体的な活用場面・事例が得られた(2)／その他（内容が多様：例/感想/評価など）(2)

*：141名の教職員から得た「活用促進につながったもの（上位から最大3つ）」の回答に対して、1位：3点、2位：2点、3位：1点の重みづけを行って集計

効果的な研修・活用促進ポイント

「自分にもできそう」な活用イメージ喚起がカギ

- ✓ **地産事例**（同じ自治体の教職員の実践）を知ることができること
  - 同じ環境だからこそ、悩み・課題の「あるある」に共感し、対応策が響く
  - 「XX小の先生もやっているなら、自分もやらなきゃ」といい意味での刺激になる
- ✓ 「やってみよう」と思った時に、**実践イメージが湧く導線**が引かれていること
  - コピペで使えるプロンプト
  - 実際の回答例サンプル
- ✓ 多忙ななかでも頭に残る、**ライトなボリューム**であること
  - 「教育の日」事例発表は1校10分×2校
  - 活用事例資料は両面1枚に２事例

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

6.2 研修（活用促進）パッケージ案

活用時期ごとにユーザーの抱えやすい「不」に応じた、タイムリーかつ効果的な施策を講じていくことが重要。

	解消すべき活用上の「不」	対応する施策・資材
導入期	• 校務に生成AIを利用することへの**不安・不信** • 生成AIチャットボットにログインするまでの**不便**	✓ 不安解消し前向きな活用を促す**導入一歩目ペーパー** - 校務での**生成AI活用メリット**（本事業での事例も紹介） - **セキュアな環境の安全性** ✓ 簡潔な**ログイン手順解説資材** - 画面キャプチャを豊富に使用した**ログインマニュアル** - ログイン手順を実演した**短尺動画**
活用初期 （開始～3か月）	• 活用イメージが**不明** • 校内推進役の**不在**	✓ 活用度に応じて使える**活用シーン・プロンプト集** ✓ 段階的にレベルアップして提供する**活用事例** - **まずはセキュアな環境ならではにこだわらず**、生成AIに触れることを目的としたものから、**徐々に校内データを取り込むものにシフト** ✓ 各校の**情報交換ネットワーク組成** - 各校で、**活用の核となる中心先生を任命** - 各校の中心先生の**情報交換コミュニティを形成**（グループチャット等）
活用中期以降 （3か月～）	• 成果実感の**不足** • 思った品質の出力にならない**不満**	✓ **地産事例の収集・還元** - ログをもとにした**好事例・高活用ユーザーの発見**（コミュニティから収集） - 1枚モノの資料にまとめて**定期的に事例を発信、プロンプト集へ反映** ✓ **プッシュ型の個別フォロー** - 高活用ユーザーから、品質・機能についての率直な声を伺い、要改善事項を収集するとともに、プロンプト等で解消できる点はリコメンド

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

目次

1. はじめに
   - 1.1 本事業の趣旨・目的
2. 実証研究の概要
   - 2.1 実証研究の目的
   - 2.2 実証地域
   - 2.3 実証期間（全体スケジュール）
   - 2.4 推進体制
3. 実施環境とシステム構成
   - 3.1 セキュアな利用環境
   - 3.2 対話型生成AIチャットボット
   - 3.3 データレイクの運用方法
   - 3.4 ネットワーク構成・セキュリティ対策等
4. 運用方法と管理
   - 4.1 ユーザー認証方法・権限設定
   - 4.2 利用ログ管理
   - 4.3 保守体制
5. 活用促進とサポート体制
   - 5.1 教職員への活用促進施策
   - 5.2 活用促進の実施方法
   - 5.3 サポート体制
6. 実証結果と効果
   - 6.1 横展開可能な好事例の創出
   - 6.2 効果的な活用促進パッケージの整理
7. **課題と解決策**
   - **7.1 実証を通じて見えた課題**
   - **7.2 課題の解決策**
   - **7.3 残課題**
8. 今後の展望
   - 8.1 生成AIの校務活用拡大に向けた要諦
   - 8.2 他自治体へ展開する場合のロードマップ案

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

7.1 実証を通じて見えた課題

本実証を通じて、実証地域のように三層分離を前提としてセキュアな環境で生成AIを校務活用していくにあたっては、①ログイン・認証、②データ投入③活用促進に関わる課題が導出された。

1 セキュアな環境でのログイン・認証に関わる課題	セキュアさと利用しやすいUI/UXの両立	利用するまでに複数回のパスワード入力や都度の二要素認証を要することで、負担に感じるケースが見られた
2 データ投入に関わる課題	タイムリーかつ簡便なデータ投入	管理者権限を持つ一部の教職員が手動で取り込む運用としていたため、現場の各教員が使いたい情報をタイムリーにデータレイクに投入するのは難しかった
	ファイル格納ガバナンスの確立	同種のファイルでも教職員ごとに、データ格納場所や名称・バージョン管理ルールがバラバラで、投入すべきデータの選別が困難だった
	AIが読み取りにくいデータ入力方法の改善	AIが校務データに基づき回答する際に、検索して回答しづらいケースが見られた
	校務システムに蓄積された情報の網羅的データ投入	校務システムの情報のなかで、実証で活用したい児童生徒の「日々の様子」データは書き出し可能な形式がそのままデータレイクに投入出来ない状態だった
3 セキュアな環境での活用促進に関わる課題	汎用AIからセキュアな環境の生成AIへの活用橋渡し	事後アンケートでは、回答者の過半数（78/141）が週1回以上汎用を含む生成AIを校務で活用するとしているが、本事業のAIチャットボットを同様に週1回以上活用するとしたのは回答者の約1割にとどまった（14/141）

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

7.2 課題への自治体で出来るシステム面での解決策

三層分離を前提としたセキュアな環境のなかで自治体主導で取り組める解決策として、ログイン負荷軽減策や適切なルール適用などが考えられる。

	課題		解決案
1 セキュアな環境でのログイン・認証に関わる課題	セキュアさと利用しやすいUI/UXの両立	利用するまでに複数回のパスワード入力や都度の二要素認証を要することで、負担に感じるケースが見られた	A ログイン・認証の負荷を可能な限り軽減した初期設定 B 負荷の低い認証方式に変更
2 データ投入に関わる課題	タイムリーかつ簡便なデータ投入	管理者権限を持つ一部の教職員が手動で取り込む運用としていたため、現場の各教員が使いたい情報をタイムリーにデータレイクに投入するのは難しかった	-※
	ファイル格納ガバナンスの確立	同種のファイルでも教職員ごとに、データ格納場所や名称・バージョン管理ルールがバラバラで、投入すべきデータの選別が困難だった	C AIに適したデータ・ルールの運用
	AIが読み取りにくいデータ入力方法の改善	AIが校務データに基づき回答する際に、検索して回答しづらいケースが見られた	
	校務システムに蓄積された情報の網羅的データ投入	校務システムの情報のなかで、実証で活用したい児童生徒の「日々の様子」データは書き出し可能な形式がそのままデータレイクに投入出来ない状態だった	D 校務データの自由な利活用に向けた校務システムベンダとの協議・対応案検討

※新機能開発など自治体単独での対応が難しい

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

7.2 セキュアな環境及びログイン・認証に関わる課題の解決策

ログイン・認証の負荷を低減した初期設定及び認証方式への転換により、課題の解決を狙う。

課題		解決案
1 **セキュアな環境でのログイン・認証に関わる課題**	A **ログイン・認証の負荷を可能な限り軽減した初期設定**	✓ 自治体の**教育情報セキュリティポリシーに準拠**している範囲内で、ログイン・認証の**負荷を出来る限り軽減**した初期設定とする • セキュアブラウザ - 認証**情報を保持**することで**認証頻度を減らす** - 生成AIチャットボットの**IDを保持**し、**認証時の負荷を軽減**する • 二要素認証 認証**コードの有効期限を延長、自動コピー**を設定、二要素認証**アプリのパスワードを廃止**し、**認証時の負荷を軽減**する
	B **負荷の低い認証方式に変更**	✓ 認証の枠組みをよりセキュアかつ手軽なものにする • 二要素**認証コード認証から、パスキーによる認証**へ - パスキー（FIDO2 / WebAuthn）認証に変更し、ログイン時の**チャットボットのID/パスワード/二要素認証コードを入力不要に変更** - サインイン頻度を8時間等の設定にすることで自治体の教育情報セキュリティポリシーに準拠する範囲で**パスキー認証自体の頻度も減らす**

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

7.2 セキュアな環境及びログイン・認証に関わる課題の解決策

自治体の教育情報セキュリティポリシーに準拠している範囲内で、ログイン・認証の負荷は出来る限り軽減した初期設定とする。

Ⓐ ログイン・認証の負荷を可能な限り軽減した初期設定

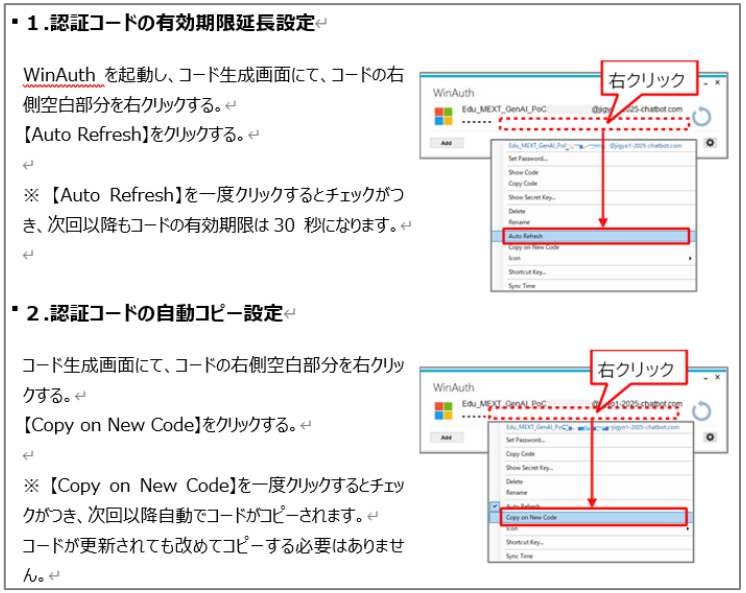
セキュアブラウザ設定を変更



各種ポリシーや教職員個人の校務PCのみで利用する形態を踏まえて、セキュアな環境を担保する範囲で設定を調整

- Cookie/セッション等の閲覧データの保持を許可
  →**認証情報を保持**することで**認証頻度を減らす**
- フォーム認証情報の保存を許可
  →生成AIチャットボットの**IDを保持**し、**認証時の負荷を軽減**する

二要素認証アプリの設定を変更



運用実態を踏まえて、セキュアな環境を担保する範囲で設定を調整

- 認証コードの有効期限を延長、自動コピーを設定
  二要素認証アプリのパスワードを廃止
  →**認証時の負荷を軽減**する

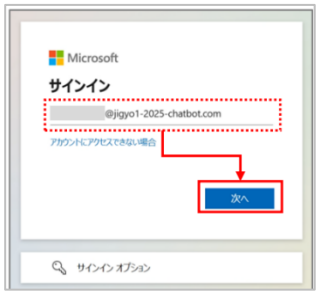
Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

7.2 セキュアな環境及びログイン・認証に関わる課題の解決策

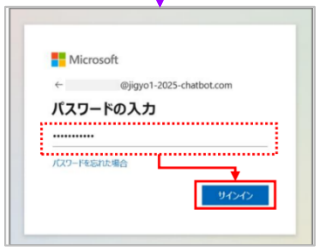
二要素認証コード認証から、パスキーによる認証に変更し、ログイン時のチャットボットのID/パスワード/二要素認証コードを入力不要な形とする。

B 負荷の低い認証方式への転換

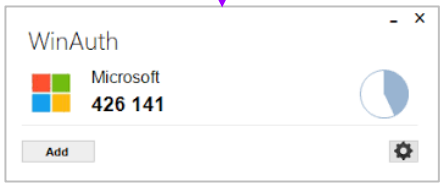
実証時の二要素認証のプロセスイメージ



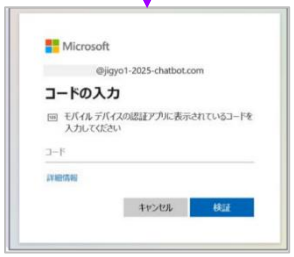
1.チャットボットのIDを入力



2.チャットボットのパスワードを入力

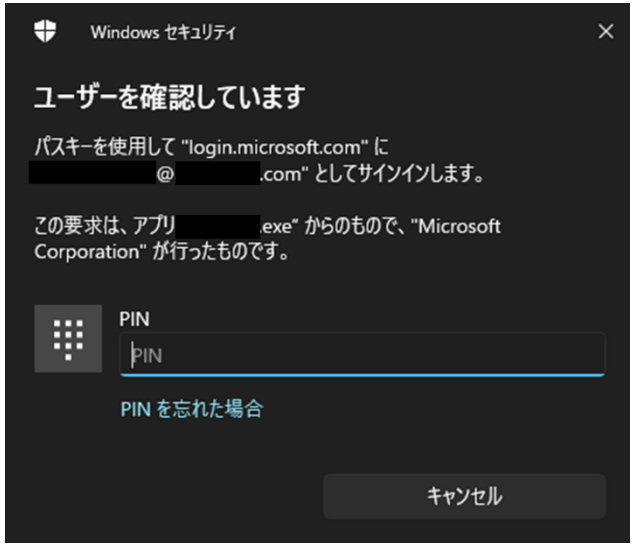


3.二要素認証アプリの認証コード発行



4.認証コードを入力

パスキー認証のプロセスイメージ



1.パスキー認証共通のPINを入力

認証方針の変換に加え、自治体の教育情報セキュリティポリシーに準拠する範囲で
パスキー認証自体の頻度も減らすことで**認証の負荷を軽減**させる

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

7.2 データ投入に関わる課題の解決策

AIに適したデータの特徴などを踏まえた資料運用ルールの運用および利活用を阻害するシステム上の制約の解消策をベンダと協議し、課題の解決を狙う。

課題		解決策
2 データ投入に関わる課題	C AIに適したデータ・ルールの運用	✓ AIチャットボット等への読み込みに適したデータの特徴やガバナンスなどを基に**データ・資料の作成・運用ルールを整理**の上、各校に周知し、日々の**資料やデータ作成などをAIに適した形にする**ことを促してゆく
	D 校務データの自由な利活用に向けた校務システムベンダとの協議・対応案検討	✓ 各校が入力した**校務データが各校が自由に利活用できる環境を整えることを前提**に、各校が**AIに取り込ませたい情報を特定**し、**校務システムの仕様や契約等を調査・確認**し、対応策を**既存ベンダと協議**してゆく

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

7.2 データ投入に関わる課題の解決策

AIチャットボット等への読み込みに適したデータの特徴やガバナンスなどを基にデータ・資料の作成・運用ルールを整理し、AIに適したデータ・資料の作成・運用を促す。

C AIに適したデータ・ルールの運用

ガバナンス共通ルールイメージ

ルール例

- **ファイルサーバのルート構造**
  - 01_校内運営
  - 02_授業・指導
  - …
- **ファイル命名規則**
  文章種別_年度_件名_版_作成日
- **バージョン管理**
  - 版番号 vX.X
  - フォルダ名等にステータス付与
  - …
- **データ品質**
  同一概念は同一表現に名寄せ
- **アクセス権限**
  閲覧・編集等の権限を分離
- **保管期限**
  - 日報:1年
  - 会議資料・議事:3年
  - …
- **個人情報の取り扱い**
  - 有無チェックは必須
  - 要配慮情報はAI利用不可
  - …

データ・資料運用ルールイメージ

タイプ	ルール例
Excel	➢ セル結合・段組み・吹き出し利用しない ➢ 1行1レコード、1列1変数 ➢ 列名は短く一意な表現＋単位・尺度 ➢ 日付は日付型でYYYYMMDDと表現 ➢ 文書作成に可能な限り利用しない ➢ 枠線や配置等に意味を持たせない ➢ …
Word	➢ 段組み・テキストボックス・図形内文字・見開きページは極力避ける ➢ 見出しはスタイルを使用 ➢ 重要情報は本文記載（ヘッダ・フッタのみにしない） ➢ 議事録は、決定事項・Todoを分離 ➢ 案内は、冒頭に結論、依頼は手順を番号で表現 ➢ …

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

7.2 データ投入に関わる課題の解決策

各校が入力した校務データが各校が自由に利活用できる環境を整えることを目指して、各校が必要な情報を特定し、校務システムの仕様等を調査し、対応策を既存ベンダと協議してゆく。

Ⓓ 校務データの自由な利活用に向けた校務システムベンダとの協議・対応案検討

校務データの目指すべき姿

学校が入力した校務データを、**学校が自由に利活用、コントロールできる**状態
（ローデータのダウンロード、編集、削除等）

目指すべき姿に向けた考えられる対応

各校が**必要とする情報を特定**し、その**情報が出力可能な仕様の校務システム**を選定

1. 各校が必要とする情報を特定
   生成AIに処理や作業をさせたい、読み込ませる必要があるなどの観点で特定
2. **校務システムの仕様や契約を調査・確認**
   既存システムであればマニュアル確認やベンダへの問合せにて仕様や契約を把握※
3. 既存の**校務システムベンダとの必要な対応策を協議**
   必要とする情報が出力不可な仕様・制約への対応策を協議
   各対応策の期間・費用・学校の負荷等を基に比較検討
   - 校務システム自体を改修
   - 校務システムとは別に対応するための機能を開発
   - 校務データの自由な利活用、コントロールを前提とする契約への変更

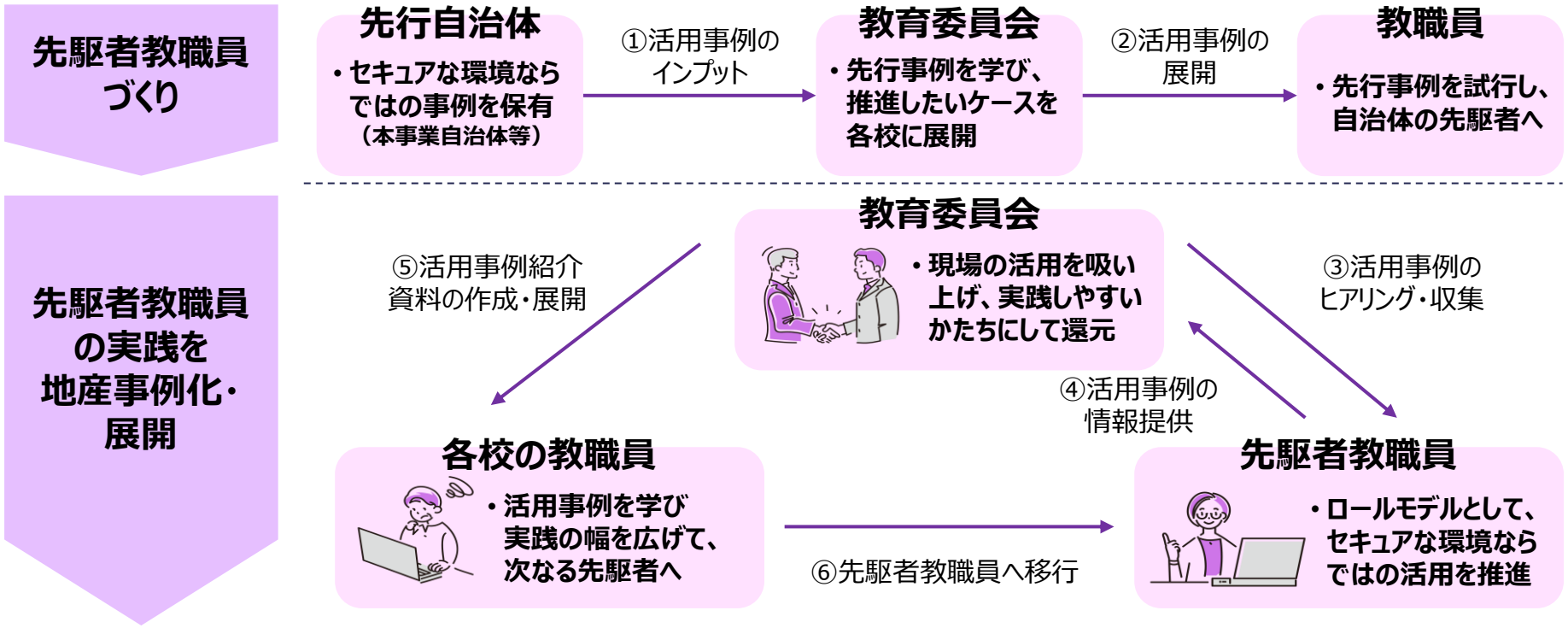
※一般ユーザに公開されていない情報がある場合もあるため、校務システムの保守・運用を担当するベンダ等と連携して対応を進めてゆくことも考えられる

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

7.2 活用促進に関わる課題の解決策

一般的な生成AI利用は広がった一方、本事業のセキュアなAIチャットボット利用への橋渡しに課題があった。解決には、セキュアな環境ならではの事例創出・還元サイクル構築が必要と思料。

課題	解決策
③ **セキュアな環境での活用促進に関わる課題**	**地産事例としてユースケースを創出・還元するサイクル構築** 1. 先行自治体で生まれたセキュアな環境ならではの事例をインプットし教職員へ紹介することで、セキュアな環境ならでは活用を試してみる先駆者の教職員をつくる 2. 先駆者教職員の実践を地産事例として取り上げて各校に展開することで、次に続く教職員からさらなる地産事例を創出し展開



Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

7.3 残課題

三層分離を前提とした実証環境のなかでは解消が難しい課題も残存した。これらの課題は、次世代校務DX環境整備を起点として解消していくことが望ましいと思料。

校務システムのデータ取り込みリアルタイム化・円滑化

- 取り込みデータの**鮮度向上**
  - 実証地域では**オンプレミス**で校務システムを運用しているため、**校務データの鮮度は取り込みタイミングに依存**
  - データ鮮度を保つには都度または頻繁な取り込みが必要であり、作業工数を勘案すると現実的でない
  - そのため、出欠席やテスト集計データは最新状況を反映できていないことも多く、**タイムリーさに欠けることで期待した出力品質にならない場面も発生**した

☞**リアルタイムなデータ取り込み実現にはクラウド型が望ましい**（以下㋒）

- 校務システムデータ取り込みに係る**事前検討の最小化**
  - 本事業では、校務システムに入っている各データについて以下の視点から精査を行っていた
    - AIチャットボットに取り込むことが可能か
    - どのような形式になるか
  - 本来的には、そもそもそういった**事前検討を行うことなく、校務システムのデータは網羅的に取り込むことができる状態であるべき**

☞**データの可視化・利活用を行う機能の整備が不充分**（以下㋓）

セキュアな環境で校務データを用いた利活用をより推進するためには

次世代校務DX環境の整備が必要と考えられる

次世代校務DX環境整備の4要素

- ㋐ 強固なアクセス制御による対策の実施
- ㋑ ネットワーク統合
- ㋒ **クラウド型校務支援システムの整備**
- ㋓ **データの可視化・利活用を行うための機能の整備**

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

目次

1. はじめに
   - 1.1 本事業の趣旨・目的
2. 実証研究の概要
   - 2.1 実証研究の目的
   - 2.2 実証地域
   - 2.3 実証期間（全体スケジュール）
   - 2.4 推進体制
3. 実施環境とシステム構成
   - 3.1 セキュアな利用環境
   - 3.2 対話型生成AIチャットボット
   - 3.3 データレイクの運用方法
   - 3.4 ネットワーク構成・セキュリティ対策等
4. 運用方法と管理
   - 4.1 ユーザー認証方法・権限設定
   - 4.2 利用ログ管理
   - 4.3 保守体制
5. 活用促進とサポート体制
   - 5.1 教職員への活用促進施策
   - 5.2 活用促進の実施方法
   - 5.3 サポート体制
6. 実証結果と効果
   - 6.1 横展開可能な好事例の創出
   - 6.2 効果的な活用促進パッケージの整理
7. 課題と解決策
   - 7.1 実証を通じて見えた課題
   - 7.2 課題の解決策
   - 7.3 残課題
8. **今後の展望**
   - **8.1 生成AIの校務活用拡大に向けた要諦**
   - **8.2 他自治体へ展開する場合のロードマップ案**

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

8.1 セキュアな環境構築のポイント：あるべき環境（トイモデル）対策全体マップ

セキュアな生成AI利用に向けて必要な対策の全体像を整理。

対象		生成AI利用プロセス別のセキュアな利用に向けた対策		
		インプット	処理	アウトプット
ヒト	ユーザー	対象者/利用用途		対象者/利用用途
	運用・監視者	対象者/対象業務	対象者/対象業務	対象者/対象業務
システム	認証	認証方法		
	端末	利用端末/端末操作		
	ネットワーク	経路/外部連携		
	システム配置		提供形態	
	LLM		モデル/自律実行※	
データ	入力データ（プロンプト含む）	情報区分/統制方法		
	出力データ（ログ含む）			利用用途/統制方法

※他システムへの自動連携、他アプリ等で実行・利用可能な状態でのアウトプットの生成

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

8.1 セキュアな環境構築のポイント：ヒト ユーザー

校内研修等を受講した教職員を対象に低リスクで一般的業務に利活用できる用途を広く許可し、高リスク機能は制限する形式が、教職員のICTリテラシーや業務を勘案すると現実的と思料。

対象	対策	学校現場向けに現実的なオプション	オプションの選定軸と弊社知見に基づく事例		
ユーザー	対象者	◆ **校内研修・利用ルール確認完了済の教職員へ段階的に展開（高リスク機能は別権限）** ✓ ICTリテラシーにばらつきがある教職員へは、研修後の段階的展開が安全 ✓ 重要性分類の高い情報を利用する等の高リスク機能は、必要性を踏まえ限られた対象者への別途権限付与が安全	対象者のICTリテラシー高低	全体的に高	• 高リスク機能（機密情報を扱うもの）以外は全員に展開 某IT企業等
				ばらつきあり	• 研修を実施し、受講完了及び利用ルールへ同意した者に権限付与 某通信企業等
				全体的に低	• 研修等拡充させて、認定取得者等から順次展開、定期的な講習設定 カスタマーセンター等
	利用用途	◆ **低リスクな一般業務用途は広く許可、他システムへの自動連携等の高リスク用途は制限** ✓ 低リスクな一般業務用途は広く教職員に開放し校務改善効果を最大化 ✓ 他システムへの影響が大きい等の高リスク用途に限って制限することで、リスクと運用負荷を最小化	用途のリスク高低	リスク高まで許可	• サービスでの注意喚起や後続システムでの修正等を前提に、AI出力を最終アウトプットとする、基幹システムへ自動連携する等も許可 某私立大学等
				リスク低のみ許可	• 資料の下書き・校正等の一般的業務用途であれば、人のレビューを前提に広く許可 業種・業界問わず多数

教職員の**ICTリテラシーのばらつき**を勘案すると、研修受講者を対象に、低リスクで日常的・一般的業務に利活用できる用途に絞って許可することが、**校務改善効果最大化と適切なリスク管理を両立**でき教育現場でメリットを最大限享受可能と思料

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

8.1 セキュアな環境構築のポイント：ヒト 運用・監視者

学校現場では各校でデータを管理していることから、学校＋教委が連携して運用・監視を実施し、日常運用は学校が、重要な設定変更等の特別な運用は教委が行う役割分担が現実的と思料。

対象	対策	学校現場向けに現実的なオプション	オプションの選定軸と弊社知見に基づく事例		
運用・監視者	対象者	◆ **各学校の情報担当と教育委員会が連携して担当** ✓ 各学校で管理しているデータも多い学校現場では、各学校と自治体の各種ポリシー等ガバナンスを担う教育委員会が連携して、運用を担うことが現実的	データの管理主体（一元・個別）	特定部署が一元管理	• システム部門が各種ガバナンスルールに則って、一括してデータ管理を担当 業種・業界問わず多数
				部署ごとに個別管理	• システム部門及び各部署が役割分担してデータ管理担当 • ガバナンスルール等はシステム部門が担当 某大学法人等
	対象業務	◆ **各学校が日常運用を、域内の全体に影響がある重要な設定変更等は教育委員会が担当** ✓ データアップロードなどの日常運用は各学校が担うことで、学校ごとの運用の自律性を確保 ✓ 重要な設定は教育委員会が担当し、自治体全体のガバナンスを担保	各部署での運用自律性確保要否	自律性確保要	• データアップロード等の日常運用はデータを管理する各部門で担当 • システム全体に影響のある重要な設定等は本部システム部門が担当 某大学法人等
				自律性確保不要	• システム部門が一括して日常運用から特別な運用まで担当 業種・業界問わず多数

他業種・業界ではシステム部門が一括して運用を担い、データアップロードや設定変更等を行うことが多いが、教育現場は**各校でデータを管理しており自律的な運用が求められる**ことから、**学校・教委で連携して役割分担した運用**が現実的と思料

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

8.1 セキュアな環境構築のポイント：システム　認証

学校現場では既存の学校・自治体ID基盤を活用可能であることから、学校・自治体IDでのSSOを基本とし、重要性分類の高い情報を利用する際は多要素認証を追加する形が現実的と思料。

対象	対策	学校現場向けに現実的なオプション
認証	認証方法	◆ **学校・自治体IDによるSSO＋重要性分類の高い情報を利用の際は多要素認証（MFA）も必須** ✓ GIGAスクール等で整備済みの学校・自治体ID基盤を活用でき、新規に大規模な認証基盤を構築せず導入可能 ✓ 利用者管理・異動時の停止対応等を既存のID運用に沿って実施でき、学校・自治体として統制が容易 ✓ VDI等の高統制な方式と比べると、費用・運用負荷を抑えつつ実装可能 ✓ 重要性分類の高い情報を扱う場合はMFAを追加することで、ガイドライン上求められる本人確認強化の要件にも対応可能

オプションの選定軸と弊社知見に基づく事例

認証・アクセス管理方式

サービス個別に認証	• 生成AIごとの個別ID・パスワードで認証 • 利用開始は容易だが、アカウント統制は分散しやすい 中小企業等
組織IDと連携して認証	• 組織の共通ID基盤を利用して認証 • 既存のID運用に沿った利用者管理・停止運用が可能 業種・業界問わず多数
＋MFA	• 共通IDに追加認証を組み合わせて本人確認を強化 • ログイン時の利用者負担や、端末変更・再設定時の問い合わせ対応は増えやすい IT企業等
＋MFA・条件付アクセス	• 端末・場所・接続条件等に応じて厳格に利用統制 • 運用設計・例外処理・端末管理を含めた全体設計は複雑化しやすい 銀行等

既存ID基盤を活用したSSOを基本に、高重要情報利用時のみ多要素認証を必須化することで、学校現場における**導入容易性・運用実現性・必要十分な認証強度を満たすことが可能**と思料

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

8.1 セキュアな環境構築のポイント：システム　端末

学校現場は個人情報等を扱うため一定の統制が求められる一方、操作負担への配慮も必要なため、学校・自治体管理端末、操作制限なしを基本に、高リスク用途は別途制御が現実的と思料。

対象	対策	学校現場向けに現実的なオプション
端末	利用端末	◆ **学校・自治体管理の端末を基本とし、管理条件を満たす端末は条件付で許可** ✓ 学校現場では児童生徒の個人情報等も扱うため、組織管理端末の活用を基本とすることで情報漏洩リスクを低減 ✓ MDM等の条件付き許可により、運用の柔軟性も一定程度確保
	端末操作	◆ **基本は制限なし（重要情報を扱う高リスク用途のみセキュアブラウザ等で出入力制限）** ✓ 学校現場では空きコマや放課後等の短時間での活用が想定されることから、制限なしを基本として操作負担を高めず円滑な校務利用を実現 ✓ 適切でない入出力リスクが高い用途のみ制限とすることで過剰制限を回避

オプションの選定軸と弊社知見に基づく事例

端末管理の統制レベル	統制レベル低	• 端末制限なし 小売り・飲食の連絡用等
	統制レベル中	• MDM適用、パッチ適用等の条件を満たす端末を許可 IT企業等
	統制レベル高	• 組織管理下の端末に限定することで、情報漏洩リスクを抑制 金融機関・省庁等
端末操作の制限範囲	広範に制限	• コピペでの入力や印刷・ダウンロード等の出力を広く制限 金融機関等
	高リスク用途のみ制限	• 重要性分類の高い情報を扱う用途のみ、入出力を制御 IT企業・コンサル等
	制限なし	• 日常的・一般的業務では操作制限を設けず、利便性を優先 業種・業界問わず多数

組織管理端末の利用を前提とすることで端末由来の情報漏洩リスクを抑制しつつ、基本は操作制限なしで重要情報を扱う用途のみ追加制御することで、**統制強化と現場利便性の両立が可能**と思料

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

8.1 セキュアな環境構築のポイント：システム　ネットワーク

学校現場ではGIGAスクール回線等の既存ネットワークを活用できる一方、運用の専門人材は限られることから、経路はインターネット接続を基本に、SWG/CASB等を利用する形が現実的と思料。

対象	対策	学校現場向けに現実的なオプション
ネットワーク	経路	◆ **既存回線を活用したインターネット接続を基本に、SWG※1/CASB※2等で通信を統制** ✓ 既存のGIGAスクール回線等を活用し、新規回線を前提とせず導入可能 ✓ SWG/CASB等で、閉域網やVPNに比べ費用・運用負荷を抑えつつ不審通信や接続先を一定程度統制可能

オプションの選定軸と弊社知見に基づく事例

通信経路の統制レベル		
	統制レベル低	• 直接インターネット接続 Web系企業等
	統制レベル中	• SWG/CASB等を経由し、インターネット利用と一定の通信統制を両立 省庁・金融等
	統制レベル高	• 閉域網やVPNを通じて通信経路を強く制御 インフラ制御系等

※1：Secure Web Gateway。Webアクセスを監視・制御し、危険なサイトや不適切な通信への接続を防ぐことで、マルウェア感染や情報漏えいのリスクを低減する仕組み

※2：Cloud Access Security Broker。クラウドサービスの利用状況を可視化・制御し、アクセス権限やデータの取り扱いを統制することで、情報漏えいや不正利用のリスクを低減する仕組み

GIGAスクール回線等の既存ネットワークを活用した通信経路統制を基本とし、SWG/CASB等を経由し、インターネット利用と一定の通信統制を行うことで、学校現場における**導入・運用の容易性と必要なリスク抑制を両立可能**と思料

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

8.1 セキュアな環境構築のポイント：システム　システム配置

学校現場ではAI基盤運用保守の専門人材が限られる一方、個人情報を扱う上で統制も必要なことから、承認済SaaSを基本とし、認証・端末・通信等の統制を組み合わせる形が現実的と思料。

対象	対策	学校現場向けに現実的なオプション
システム配置	提供形態	◆ **教育委員会・学校が承認したSaaS利用を基本とする（これまで述べた認証・端末・用途・ネットワーク等の統制は前提）** ✓ 学校現場ではインフラやAI基盤を保守・運用できる専門人材が限られるため、SaaS利用が最も導入しやすく現実的 ✓ 教育委員会・学校で事前に承認したサービスに限定することで、安全性を確認しながら展開可能 ✓ PaaS/IaaSやオンプレミスは柔軟性が高い一方、設計・監視・保守の負荷を勘案すると学校現場では過重となる懸念 ✓ 学校現場では児童生徒の個人情報を取り扱うため、利用にあたってしかるべき統制を行うことは前提

オプションの選定軸と弊社知見に基づく事例

システム基盤の統制レベル及び運用負荷

統制レベル・運用負荷	
低	• 承認済みSaaSを利用 中小企業等
中	• PaaS/IaaS上に独自環境を構築 • 柔軟性は高いが、設計・保守の専門性が必要 業界・業種問わず多数
高	• オンプレミス・ローカル環境を自前構築 • 高い統制は可能だが、維持負荷が大きい 一部省庁等

承認済SaaSの利用を基本に、学校現場では児童生徒の個人情報等を扱うことを前提とした認証・端末・ネットワーク等の統制を講じることで、学校現場における**導入・運用の容易性とセキュアな環境担保を両立可能**と思料

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

8.1 セキュアな環境構築のポイント：システム LLM

学校現場ではAIモデルに関する知見を持つ人材が限られ、ICTリテラシーもばらつきがあるため、教育委員会の管理したモデル内で人が結果を確認できる活用を行うのが現実的と思料。

対象	対策	学校現場向けに現実的なオプション
LLM	モデル	◆ **教育委員会で指定した複数モデルから用途に応じて選択** ✓ モデルによって得意な用途が異なるため、様々な生成AIの用途が想定される場合は選択可能とするのが妥当 ✓ 学校現場ではAIモデルに関する知見を持つ人材が限られるため、教育委員会でモデルの性能・安全性・監査性を担保することでリスクを管理
	自律実行 ※1	◆ **出力結果を人が参照（自律実行なし）または人の結果確認を前提に自律実行** ✓ 自律実行は、結果に誤り等が含まれうる前提で活用の検討が必要 ✓ 学校現場はICTリテラシーにばらつきがあるため、自律実行の活用はシステムでなく人の確認を前提とするのが安全

オプションの選定軸と弊社知見に基づく事例

想定する生成AIの用途	用途限定的	• 教育委員会・学校で指定したモデルに限定（単一用途の機能で利用） 業界・業種問わず多数
	用途多数	• 教育委員会で指定した複数モデルから用途に応じて選択 業界・業種問わず多数
自律実行・ユーザーのICTリテラシーの高低	自律実行なし	• 出力結果を人が参照（自律実行なし） 業界・業種問わず多数
	自律実行あり リテラシー低	• 人の結果確認を前提に自律実行 業界・業種問わず多数
	自律実行あり リテラシー高	• 事前に許可した業務を自動で実行 IT業界

教育委員会が指定した複数モデルの選択肢の中で、人の結果確認を前提に自律実行を含めた活用を認めて、必要な制御を備えた生成AI環境を提供することで、学校現場における**活用の柔軟性とセキュアな環境担保を両立可能**と思料

※1：他システムへの自動連携、他アプリ等で実行・利用可能な状態でのアウトプットの生成

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

8.1 セキュアな環境構築のポイント：データ 入力

学校現場ではプライバシー性の高い情報を業務利用する一方、データガバナンスの知見を持つ人材が限られることから、既存の仕組みを活かして自動で統制する仕組みが現実的と思料。

対象	対策	学校現場向けに現実的なオプション	オプションの選定軸と弊社知見に基づく事例		
入力データ	情報区分	◆ **公開情報＋学外・社外秘情報までを基本とし、プライバシー性の高い情報は用途・利用者を限定** ✓ 成績や健康診断の結果など学校現場ではプライバシー性の高い情報を業務利用しているため、それらを一律対象外とはせず、重要性分類等を基に利用者・用途を必要十分な範囲に限定して利用が妥当	公開範囲	公開情報まで	• 汎用的な情報検索や文案・たたき台作成に適用 業界・業種問わず多数
				学外・社外秘情報まで	• 校内・社内会議資料等を利用可能とし、実務適用範囲を拡大 業界・業種問わず多数
				個人・機微情報まで	• 用途・利用者を限定のうえ、成績・評価・健康情報等の機微な内容も扱うより高度な業務に利用 金融業界
	統制方法	◆ **元データのアクセス権を引き継いで利用** ✓ 学校現場ではデータガバナンスの知見をもつ人材が限られるため、学校現場で権利定義を行わない仕組みが妥当 ✓ 元データのアクセス権定義を利用することで既存のデータガバナンスの中でリスクを管理	アクセス権定義・データ利用頻度	定義なし・利用頻度高	• システムアップロード時にアクセス権を人が設定（全員利用可能データのみ利用） 業界・業種問わず多数
				定義あり・利用頻度高	• 元データのアクセス権を引き継いで利用 or パス等から自動設定 業界・業種問わず多数
				利用頻度低	• 利用時に都度データをアップロード 業界・業種問わず多数

元データのアクセス権を引き継いで、その定義に基づいて業務で多く活用される個人情報・機微情報を含むデータを必要十分な範囲に限定して活用することで、学校現場における**広範囲な活用とセキュアな環境担保を両立可能**と思料

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

8.1 セキュアな環境構築のポイント：データ 出力

学校現場ではAI出力の正確性や適切性に関する説明責任が特に求められることから、出力データは校内利用までを基本とし、対外利用は限定したうえで人が最終判断を担う統制が現実的と思料。

対象	対策	学校現場向けに現実的なオプション
AI出力データ	利用用途	◆ **校内利用までを基本とし、対外利用は人の確認を前提に許可** ✓ AI出力の誤り等の可能性を踏まえ、校内利用までを基本とすることが安全 ✓ 校内資料作成や業務補助への活用は妨げず、校務改善効果は担保 ✓ 保護者・外部向け用途は説明責任が伴うため、人による確認・判断を前提として限定的に扱うことが現実的
	統制方法	◆ **確認項目をルール化した上で、人が最終判断** ✓ AI出力の誤り等が校務運営や対外説明に影響するため、出力結果利用には人の最終判断必須が安全 ✓ 教職員のICTリテラシーにはばらつきもあるため、確認項目はルール化しておくことで一定の確認品質を担保

オプションの選定軸と弊社知見に基づく事例		
AI出力結果の対外影響度	対外影響小	• 他者共有を前提とせず、利用者本人の検討・下書きに使用 業界・業種問わず多数
	対外影響中	• 組織内の共有や、組織内で完結する業務に使用 業界・業種問わず多数
	対外影響大	• 組織外への提供・説明を伴う業務にも使用 問い合わせ対応等
AI出力結果に対する人の関与度	人が最終判断	• 人による個別の確認・判断なしには出力結果を利用しない 業界・業種問わず多数
	注意喚起中心	• 誤りや不適切表現のチェック観点をルール化し、確認を促す形で運用 社内利用議事録生成等
	システムが自動判断	• 出力内容の妥当性や利用可否をシステムが自動で評価・判断 候補のレコメンド等

AI出力データは校内利用を基本に、対外利用時は人が確認・判断することで、**校務の効率化と必要な正確性・説明責任担保を両立可能**と思料

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

8.1 データ投入におけるポイント

校務システムの仕様で取り込みたいデータがDATファイル等での出力に限られることに伴い、生成AIでの利用が難しいケースが挙げられる。詳細な仕様を把握し、仕様に応じた対応が必要。

DATファイル概要

- 特定の保存形式が定義されていないデータファイルであり、テキスト・バイナリ・画像・音声など**任意の情報を保存可能**
- **拡張子だけでは内容を識別できず**、中身は作成元のアプリケーションに依存

DATファイルの種類		対応難易度	主な対応方針
テキスト	平文テキストDAT	**低** • 中身がそのまま文字として読めるため扱いやすい • 整形次第でTXT/JSON/CSV等にそのまま変換可	**学内で**市販エディタ**活用**
	バイナリデータDAT	**中程度** • 文字化けするデータ、形式不明なことが多い • 構造やヘッダを解析できれば変換可	変換ツール作成を**AI開発・運用ベンダに協議**、学内で検討
	暗号化されたDAT	**高** • 内部が暗号化/独自仕様で一般ソフトで読めない • 作成アプリの仕様を知らないと変換不可	**校務システムベンダ**が変換または変換ツール作成
画像・音声	画像データが含まれるDAT	**低～中** • 多くは画像フォーマットをDATにしているだけ • ヘッダ解析で形式特定しやすい	変換ツール作成を**AI開発・運用ベンダに協議**、学内で検討
	音声データが含まれるDAT	**低～中** • 中身は動画／音声データで、拡張子だけDATになっている場合が多い • 内部形式が推測できれば比較的容易に変換可	変換ツール作成を**AI開発・運用ベンダに協議**、学内で検討

同じファイル形式でも種類の違いにより対応方針が異なるため、詳細な出力データの仕様の把握と、例示した主な対応方針に留意した校務システム及びAI開発・運用ベンダとの協議が必要

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

8.1 活用促進におけるポイント

これまでの実証成果と課題を通して、セキュアな環境での活用促進には、教職員に確実にコンテンツを届け、そのコンテンツがアクションを促し、地産事例化するための工夫が求められると思料。

教職員全体へ届ける

「場所・時間の制約なく見られる」&「確実に伝播させる」仕組みづくり

- ✓ 研修にリアルタイムで参加できなくても動画・資料を参照できるよう、オンラインの配信サイトにコンテンツ搭載
- ✓ コンテンツを搭載して終わりではなく、嬉野市における生成AI部会のように、教育委員会からの情報が学校現場に確実に浸透するチャネルから告知

主体的活用を生み出す

教職員が無理なくアクションできる、内容・タイミング両面での足場架け

- ✓ 教職員の理解度・活用度に応じてレベル別・段階的にコンテンツを提供し、「これなら自分もできそう」という前向きな活用イメージを喚起する
- ✓ コンテンツは両面1枚程度のライトなボリュームに抑えたうえで定期的に発信し、忙しい中でも目を通すことができ、生成AIへの意識を継続させる

セキュアな環境ならではの事例に昇華する

先駆者教職員を起点とした地産事例創出・還元サイクルづくり

- ✓ 先行自治体の事例提供を通じて、セキュアな環境ならではの活用イメージを喚起
- ✓ 活用ログや学校現場へのヒアリングから、ロールモデルとなる先駆者教職員を発掘
- ✓ 先駆者教職員の活用を身近な地産事例として取り上げて自治体内で還元することで、次なる先駆者教職員と地産事例をつくりだす

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential

8.2 他自治体へ展開する場合のロードマップ案

他自治体への展開には、環境リリース前の推進体制明確化や利用したいデータが投入可能な状態担保、環境リリース後の円滑な活用や地産事例創出支援が押さえるべき要点になると思料。

環境リリース前

構想策定（1～2か月）

推進体制・目指す姿の明確化

- **先行自治体の事例収集** p.45-48
  - セキュアな環境だからこそ実現できることや、推進上の難所を理解
- **自治体として創出したい重点ユースケースの抽出** p.45-48
  - どの領域で生成AI利用の成果を刈り取るか、現場の課題感も踏まえて明確化
- **推進体制の検討** p.36
  - 教育委員会と学校現場のハブとなって生成AI活用を推進する、生成AI部会のような枠組みが望ましい

データ整備（2～3か月）

利用したいデータが投入可能な状態担保

- **利用したい校務データの特定** p.57-59
  - 重点ユースケースから、どのようなデータを投入するべきか見極め
- **校務システムの仕様・契約の調査・確認** p.57-59、73
  - 利用したいデータが投入可能な状態で出力できる仕様や契約になっているか把握
- **校務システムベンダとの協議** p.57-59、73
  - データ出力や利用に何らかの制約があるならば、対応策を協議

環境リリース後

導入・活用初期（導入～3か月）

スムーズな活用一歩目踏み出し

- **生成AI校務利用開始の「不」解消** p.50
  - 簡便な導入一歩目ペーパーやログイン解説資材を作成・展開
- **活用イメージの喚起** p.37-41
  - レベル別・段階的に、プロンプト集や活用事例等コンテンツを提供
- **先駆者教職員の発掘・ネットワーク組成** p.60
  - 活用ログ等をもとに、比較的活用が進んでいる教職員を特定
  - 各校先駆者教職員を繋ぎ情報交換促進

導入中期～（3か月～）

地産事例の創出・還元

- **学校現場の実践収集** p.60
  - 先駆者教職員間での情報交換やヒアリングから、好事例を抽出
- **実践の地産事例化と横展開** p.60
  - 収集した事例をその自治体の地産事例としてとりまとめ
  - とりまとめた地産事例は各校へ展開するとともに、プロンプト集等へも反映

Copyright©2026 Accenture Allrightsreserved.HighlyConfidential